

溪仁会グループ

CSRレポート2021

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2021



「ずーっと。」
人と社会を支える

ik 溪仁会グループ

医療
法人 溪仁会

社会福祉
法人 溪仁会

株式
会社 ソーシャル

医療
法人 稲生会



シンボルマークについて

溪仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループの理念を表現しています。

その形状は人と人の支え合いに基づいた「安心感と満足の提供」、

勢いよく真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表しています。

ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・マインド」および「信頼の確立」を

ひたむきに追求する、誠実さをイメージしています。

溪仁会グループ CSRレポート 2021

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT 2021



編集方針

溪仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。

CSRレポート2021では、第4期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」の内容と溪仁会グループの「あるべきすがた」について、その実現に向けた取り組みを紹介することで、グループがめざす方向性を表現しています。

また、溪仁会グループの新型コロナウイルス対策について特集したほか、これからのSDGsへの取り組みについても取り上げています。

第三者意見は、小樽商科大学学長の穴沢 眞氏にお願いいたしました。ご協力いただいた皆さんの声は、当グループの今後の事業の在り方や活動内容の検証に役立て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

報告の範囲

当グループの2020年度(2020年4月～2021年3月)の活動やデータを中心に、2019年度以前や2021年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーは、当グループのWebサイト上で公開しております。
URL <https://www.keiinkai.com>

次回発行について

次回CSRレポートは、2022年10月を予定しています。

●発行
医療法人溪仁会 法人本部 2021年11月

●お問い合わせ先
医療法人溪仁会 法人本部
経営企画部 広報課
〒006-0811
札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号
溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501
E-mail editor0110@keiinkai.or.jp

CONTENTS

溪仁会グループの社会的使命	P04
溪仁会グループの事業理念	P05

特集 1

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)との闘い	P06
--------------------------------	-----

Column

持続可能な未来をめざして Kick Off! SDGs	P14
-----------------------------	-----

特集 2

ビジョン溪仁会2025	P16
-------------	-----

Stakeholder dialogue

人と社会を支え続ける組織であるために ～2040年に向けた組織ビジョン～	P24
---	-----

2020年度溪仁会グループ活動TOPICS	P28
-----------------------	-----

数字で読み解く溪仁会グループ	P36
----------------	-----

TOP MESSAGE

2040年を視野に新たな中期経営計画を策定し 持続可能な組織体制の確立に取り組む

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会 理事長 田中 繁道	P44
--------------------------------	-----

第三者意見	P46
-------	-----

ISO26000対比表	P47
-------------	-----

溪仁会グループマップ	P48
------------	-----

溪仁会グループ一覧	P50
-----------	-----

溪仁会グループ「CSRレポート2021」アンケートご協力をお願い

本レポートへのご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。お手持ちのスマートフォンやパソコンなどで右のQRコードを読み取っていただき、アンケートページにアクセスしてご回答ください。
(回答期限：2022年9月30日)





溪仁会グループの
社会的使命



「ずーっと。」
人と社会を支える[®]

溪仁会グループ

私たち溪仁会グループは、
社会的責任(CSR)経営を推進します。
高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

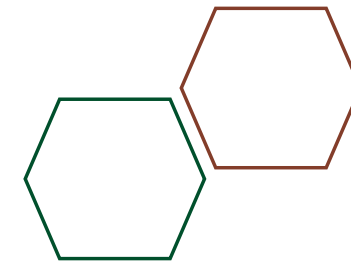
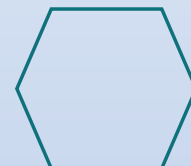
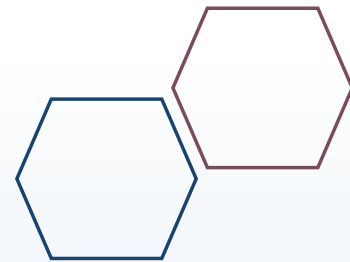
【商標登録について】
2021年4月6日に、



(登録第6373935号)と

「ずーっと。」
人と社会を支える

(登録第6373936号)が
商標登録されました。



溪仁会グループの事業理念

安心感と満足の提供
Offering a Sense of Security and Satisfaction

信頼の確立
Building the Foundations of Trust

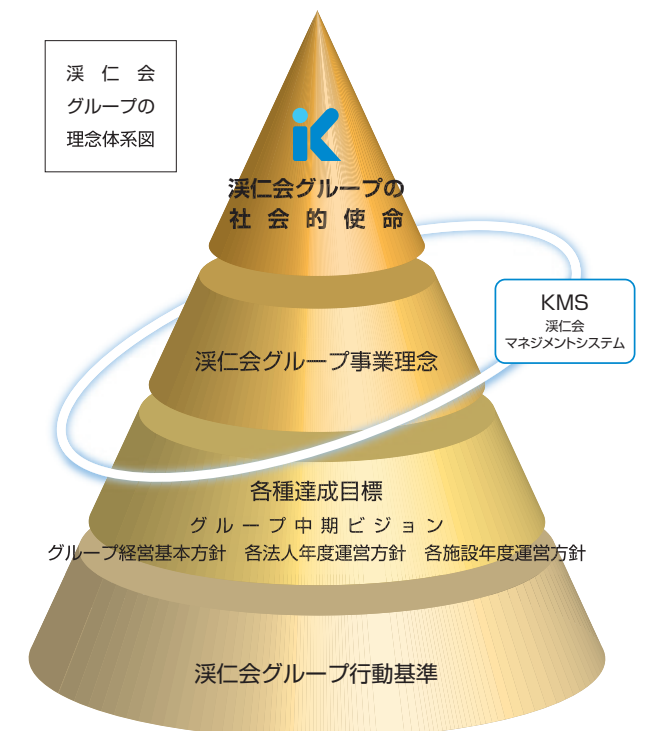
プロフェッショナル・マインドの追求
Attaining a Professional Mind

変革の精神
Developing the Spirit of Change

グループ経営の理念とその体系

私たち溪仁会グループは、「ずーっと。」を言葉にCSR経営を推進してきました。この「ずーっと。」を具体的な理念として規定し、社会的責任をグループ全体で約束し、実現していくために、2014年10月1日に「溪仁会グループの社会的使命」を制定しました。「保健・医療・介護・福祉」のサービスの質を「公益性(人)」、経営の質を「継続性(社会)」という言葉で表現しています。

「溪仁会グループの社会的使命」は、事業理念や各種達成目標の上位概念として、経営の根幹を成すものです。また、溪仁会マネジメントシステム(KMS)を、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)との闘い

溪仁会グループでは、患者さん・利用者さんや地域で暮らす方の生命や生活を支えるという使命を果たすため、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対策を強化し、質の高いサービスの維持に努めています。2020年から2021年にかけて、当グループが新型コロナウイルス感染症にどのように対応し、困難を乗り越えてきたのかを、各病院や施設の取り組みを中心にお伝えします。

溪仁会グループの新型コロナウイルス感染症への基本方針

感染対策

溪仁会グループでは2020年2月に感染対策本部を立ち上げ、グループ内の各病院・施設に対して感染防止に必要な情報の発信を開始しました。さらに病院や施設の情報を一元的に収集・管理し、状況把握を行っています。

当グループには急性期、回復期、慢性期の機能を持つ複数の病院と、高齢者ケアを中心に多様なサービスを展開する福祉施設があり、病院や施設の状況に合わせた感染対策が求められます。具体的な対策は、病院ではICT(Infection Control Team=感染制御チーム)が、施設では感染対策委員会などが中心となって検討・策定し、実行しています。

感染発生時の対応

陽性者の発生時は、病院であれば医療法人溪仁会法人本部に、施設であれば社会福祉法人溪仁会法人本部に報告の上、各所管の保健所に連絡し、迅速に事実を公表します。また、当該施設の職員に情報を伝達し、情報共有を図ります。同時に、保健所や法人本部と連携して感染経緯の調査と濃厚接触者への検査を実施します。さらに、状況に応じて入退院や外来診療、通所サービスなどを中止します。

集団感染の発生時も同様に初動対応を行った上で、現地対策本部を設置し、保健所や法人本部と連携して濃厚接触者の調査と検査を実施。必要に応じて職員・患者さん・利用者さんの検査も行います。さらに、病棟や入居フロアの封鎖・再編・ゾーニングなどを行い、感染拡大を防ぎます。

このような感染拡大防止を図る上で大切なのが的確な情報把握です。報告書式などを統一することで正確な情報収集と迅速な判断ができるようにしています。

感染症対策を取り入れた事業継続計画の策定を目標に

医療法人溪仁会法人本部
常務理事 法人本部長
松田 宏二



溪仁会グループでは2020年12月に、新型コロナウイルス感染症陽性者発生時の活動基本方針を作成しました。情報伝達の流れや具体的な行動を明文化したことで、判断に迷うことなく、速やかな対応が可能になりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、あらためて実感したのが、新型コロナウイルス感染症に対応したBCP(Business

Continuity Plan=事業継続計画)の必要性でした。これまでも法人や病院、施設ごとにBCPを策定していましたが、災害発生に対応したものであり、感染症は想定していませんでした。これまでに得た感染対策や感染発生時の対応に関するノウハウ、課題などを今後に引き継いでいくためにも、感染症を想定したBCPの策定を早急に進める考えです。

当グループの職員は新型コロナウイルス感染症の発生以来、感染リスクを避け、患者さんや利用者さんの生命を守る行動を何よりも心掛けています。強い使命感を持ちながら、医療や福祉の最前線に立つ職員の心身をサポートしていくことも、重要な取り組みだと考えています。

これからも法人一体となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、患者さん、利用者さん、地域の皆さま、そして職員の生命を守り支え続けていきます。

力を合わせて コロナ禍を乗り越えるために

溪仁会グループでは、各病院や施設、法人が連携し、新型コロナウイルス感染症への対応を進めています。情報共有や感染対策のサポートなど、互いに協力することが感染防止の鍵です。

高齢者施設の感染対策をICNがサポート

社会福祉法人溪仁会が運営する施設は高齢の利用者さんが多いため、感染が広がると利用者さんの生命の危機につながる可能性があります。各施設では感染対策委員会などが中心となり感染予防活動を行っていますが、現場の職員からは、より専門的な見地からのアドバイスがほしいという意見が出ていました。特に医療資源が限られている地域では、感染対策をより徹底しなければならないという危機意識の高まりがありました。

こうした声に応え、2020年12月23日、手稲溪仁会病院のICN(Infection Control Nurse=感染管理認定看護師)がコミュニティホーム岩内、岩内ふれ愛の郷、泊村立茅沼診療所を訪問し、意見交換と施設内の視察を実施しました。どの施設も職員の意識



感染制御の視点からの具体的なアドバイスを受けました



アドバイスを参考に、浴室前ののれんを布製からビニール製に変更

が高く、基本的な感染対策が守られていることを確認。ICNからは対策をより徹底するためのアドバイスのほか、業務を行う上での疑問や不安に対する助言などが行われました。

外部からの評価が 職員の自信に

岩内ふれ愛の郷
施設ケア部 看護課
課長代理 **浜守 千里**



当施設では感染対策部会が細かなルールを作り、新型コロナウイルス感染症への対策を図ってきましたが、感染が拡大する中、これで良いのだろうかという不安が常にありました。今回、感染制御の専門家であるICNの視察を受けたことで、自分たちの取り組みの正しさを再確認でき、大きな自信になりました。職員の休憩室の使い方なども詳しく指導していただき、あらためて気持ちが引き締まりました。グループ内でこうした支援を受けられたことで職員の安心にもつながり、心強く感じています。

現場での迷いを 解消できました

コミュニティホーム岩内
施設ケア部 看護課
主任 **船木 麻子**



昨年度で当施設の感染対策部会の部長として感染対策を進めてきました。利用者さんのケアを行う上で、さまざまな疑問がありましたが、ICNから状況に応じたアドバイスをいただけたことが大変役に立ちました。当施設で新規の入所を中止していた際には、再開をめざすにあたり、隔離期間の目安やケアの際の留意点などを聞いたことで、迷いや疑問を解消することができました。視察では取り組みを高く評価していただきましたが、今後も気を緩めず、感染対策を継続していきます。

具体的な提言を 感染対策に反映

コミュニティホーム岩内
経営管理部 リハビリテーション課
副主任 **岸本 賢武**



リハビリテーション課では入所と通所リハビリテーション、訪問看護(リハビリ業務)を提供しています。業務上、地域で暮らす利用者さんとの接触が多いため、感染対策には非常に力を入れています。感染防止のチェック事項を20項目ほど作り、常に確認するようにしてきましたが、その取り組みをICNに評価していただいたことで、職員たちはとても安心していました。利用者さんやご家族、そして私たち職員自身を守るため、指摘していただいた改善点はすぐに取り入れ、感染対策を強化しています。

緊急感染対策情報交換会を開催

新型コロナウイルス感染症の情報共有を図り、今後の感染対策に活かすことを目的に、2020年11月10日「溪仁会グループ緊急感染対策情報交換会」を開催しました。オンラインによる開催で、医療法人溪仁会の4つの病院と社会福祉法人溪仁会法人本部が参加。感染者が発生した際の対応や対策事例の紹介のほか、質疑応答が行われ、グループ内での一層の連携強化を求める意見が出されました。



オンライン研修で遠隔地の施設を支援

2021年1月27日、宮城県気仙沼市のおおしまハーティケアセンターで、感染対策研修会を実施しました。研修はオンラインで行い、手稲溪仁会病院の感染制御管理室主任であるICNが講師を務めました。同施設の近隣にある福祉施設で新型コロナウイルス感染症の陽性者が出ていたこともあり、感染対策の確認と見直しを中心に、感染時の症状や発症時の経過の説明、質疑応答などが行われました。



手稲溪仁会病院における 新型コロナウイルス感染症への取り組み

手稲溪仁会病院は地域の医療を支える中核病院として、早期から新型コロナウイルス感染症への対応を強化してきました。
徹底した感染対策を図りながら医療体制を維持し、患者さんの生命を守る取り組みを続けています。

検査の強化と柔軟な病床運用で札幌市の救急医療を支える

手稲溪仁会病院は札幌市内に5つある3次救急医療機関の1つとして、主に重篤な救急患者さんを受け入れています。地域の方々の生命を守るという使命を果たすため、同病院では新型コロナウイルス感染症の発生当初から感染対策を図り、札幌市の救急医療体制の維持に尽力しました。また、新型コロナウイルス感染症の検査や治療のニーズに対応し、人員や設備、病床などの確保と整備に取り組みました。

2020年2月に設置した「COVID-19対策本部」では、多職種による会議を開催し、情報共有や課題の検討などを実施。特に感染リスクの高い救命救急センターのゾーニングを強化し、救急医療体制の維持に努めました。

その後の感染拡大に伴い、救急患者さんの受け入れ要請が急増。感染が疑われる方の対応には、隔離個室に加え、多くの人手が必要になり、救急部門は対応に追われました。また、札幌市保健

所からの要請に応え、陽性患者さんの受け入れを開始しました。

こうした事態を受け、新型コロナウイルス感染症に対応した入院・治療体制の拡充も急務となりました。同病院ではEU(救命救急病棟)の一部病棟に加え、ほかの病棟の一部も新型コロナウイルス感染症専用病棟に変更。さらにほかの病棟の一時休止や新型コロナウイルス感染症専用病棟への変更、待機可能な手術の延期などを行い、マンパワーの確保と感染者への治療を強化しました。新型コロナウイルス感染症に対応しつつ通常診療を最大限維持するために、さまざまな部門が連携し、支え合いました。

院内感染対策にも注力し、発熱を検出するサーモグラフィー装置や病室を短時間で除菌する紫外線照射殺菌装置などを導入。院内で迅速にPCR検査ができる体制も築き、患者さんだけでなく、職員の安全・安心も確保しました。今後も同病院は質の高い医療の提供に尽力し、地域の生命を守る使命を果たしていきます。



院内でPCR検査を実施できる体制を整えました



物質の表面に付いたウイルスを短時間で不活性化する紫外線照射殺菌装置

使命は高度な医療体制の維持 経験を活かし地域への支援も

手稲溪仁会病院
院長 成田 吉明



当病院は2020年2月から新型コロナウイルス感染症への対応を続けてきました。当初は重症患者さんの受け入れは2名までとし、疑似症の方の対応を主に受け持ちましたが、救急搬送の受け入れ要請が急増し、通常は80%以上を受け入れていたのが60%台にまで落ちた時期もありました。当病院は地域の重点医療機関であり、さまざまな疾患や事故などによる重症(傷)患者さんに対応するのが本来の機能です。感染

拡大が続いたときは、いかに安全かつ効率的に救急部門を運営するか苦心しました。また、同年11月に当病院で集団感染が発生したときは感染対策を細部まで見直すと同時に、職員のメンタルケアにも配慮し、安心して働ける環境を構築しなければならないと強く感じました。

当病院が得た感染対策のノウハウは、他の病院や施設にも積極的にお伝えしています。近隣で陽性者が出たという情報があれば出向いてアドバイスをし、早期収束を支援します。こうした活動も当病院の重要な役割ですし、地域の医療を守ることにつながると思っています。

当病院の使命は、他の病院との機能分担を図りながら、質の高い通常医療、救急医療を提供することです。今後も新型コロナウイルス感染症への対応と通常診療とを維持しつつ、地域の医療を支えていきたいと考えています。

ICTを中心に感染対策を図ると同時に、職員を守る取り組みも重視

同病院ではICTが中心となり新型コロナウイルス感染症の感染対策を検討、実行しています。2020年2月26日から水際対策として、病院正面玄関での発熱・呼吸器症状のある患者さんのトリアージ(症状に応じた選別)を実施。専用の外来診療室を設け、患者さんが陽性であった場合に備えました。また、マニュアルに沿った基本的な感染対策を徹底。患者さんの隔離を解除する際のルールや病棟のゾーニングなど、病院全体で対応を統一しました。

職員の体調管理も重視し、毎日専用のアプリケーションで各自が体調報告を行い、少しでも異変を感じた場合は院内で検査を受けられる体制を整備。職員の安全と安心を守ると同時に、感染対策への意識向上も図っています。感染対策の徹底には部門間の情報共有や協力体制が重要になるため、月2回のICT会議に加え、必要に応じて臨時の代表者会議を開き、病院全体の方向性を確認しながら新型コロナウイルス感染症への対応を強化しています。



玄関前のトリアージでは疑似症の患者さんと一般の患者さんが接触しないように配慮しました



院内感染を防ぐため、病棟のゾーニングを徹底しています

迅速な検査が対策の決め手 常に情報を集め最善を尽くす

手稲溪仁会病院
副院長 古田 康



新型コロナウイルス感染症への対応を始めた頃は、どのような性質のものなのかわからず、まずはできる限り情報を収集し、ICTで検討しながら感染対策を進めました。

対策を続けてきて思うのは、迅速な検査の実施が重要ということです。初めに感染が広がった時、当病院はPCR検査に対応していませんでしたが、2020年5月に北海道科学大学より検査装置の貸与を

受けたことを契機に、検査体制が飛躍的に進歩しました。PCR検査に加え、抗原定量検査も導入し、迅速に多数の検査を行えるようになりました。11月に集団感染が発生した際は、約2,000人の職員や患者さんにスクリーニング検査を行い、感染の広がりを食い止めました。

一方で、さまざまな感染対策を行っても、その意味や方法を職員が正しく理解していなければ感染を十分に防ぐことはできません。職員への啓発や情報共有を図るため、ICTが中心となって感染対策の動画を制作したり、情報の一斉配信などを行っています。

新型コロナウイルス感染症は次々に変異株が発見されており、これからも情報を更新し続けていく必要があると考えています。先が読めない中であっても常に最善を尽くしながら、感染対策に取り組んでいきます。

院内でのPCR検査体制を確立

手稲溪仁会病院では新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、院内でのPCR検査体制を整備するため、「教育・研修に係る連携に関する協定」を締結している北海道科学大学に協力を要請。同大学の薬学部が所有するPCR検査装置1台の貸与を受けることになり、2020年5月20日に「PCR検査体制の構築にともなう調印式」が行われました。



地元企業に防護衣の開発を依頼

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で医療資材が不足する中、手稲溪仁会病院の依頼を受けた小樽市の包装資材メーカー「極東高分子株式会社」がポリエチレン製の使い捨て防護衣を開発しました。

2020年4月下旬に試作品を作り、同病院で高い評価を得たことから製造を本格化。5月1日に約2万枚を納品しました。同病院では通常の約2倍もの防護衣を消費する状態が続いていましたが、地域の企業の協力によって使い捨て防護衣を安定的に確保できるようになりました。

溪仁会グループの各施設における 新型コロナウイルス感染症への取り組み

溪仁会グループの各施設では、新型コロナウイルス感染症への感染対策を推進すると同時に、職員へのサポートを強化しています。患者さんや利用者さん、地域の皆さま、そして職員を守るための取り組みをご紹介します。

定山溪病院の事例

危機意識を共有し早期から感染対策を徹底

定山溪病院では2020年2月から、感染対策の強化に取り組みました。同病院は慢性期の患者さんが中心のため、ケアには身体接触を伴います。1人でも病棟で感染が発生すると、職員や患者さんに多くの濃厚接触者が出る可能性が高く、医療体制を維持する上で徹底した感染対策を図る必要がありました。同月からICTのメンバーに院長や各部門の責任者を加えた拡大会議を毎週開催し、情報収集と院内対策の検討を実施。ご家族などの来院による面会は原則禁止としました。

5月には一時感染が下火になりましたが、同病院では対策を緩めず、ガウンやキャップ、マスク、手袋などを装着する個人用防護具 (PPE=Personal Protective Equipment) の病棟での使用を



来院者には入り口での手指の消毒と体温測定をお願いしています



オンライン面会には看護師が立ち会い、患者さんの様子をご家族に伝えています

決めました。このとき、N95マスク (超微粒子の侵入を防ぐ呼吸用防護具) も導入。また、使われていない病棟に新型コロナウイルス感染症専用病棟を開設し、専任の担当者を決めて感染者の発生に備えました。感染が再拡大しつつあった11月には、肌の露出を抑えるフェースシールドや不浸透性の長袖ガウンを装着するなど、より厳重な防護具に変更しました。

職員間の感染対策としては、集合形式による会議の削減や参加者の絞り込み、職員食堂以外の休憩場所の確保、机の配置の変更、パーティションの設置などを実施。また、新型コロナウイルス感染症以外の発熱者を迅速に受け入れるため、院内でのPCR検査体制を構築しました。

同病院ではさまざまなリスクを想定した対策によって、病棟での新型コロナウイルス感染症の発生を防いでいます。今後も感染対策を徹底し、患者さんの安全を守っていきます。

徹底した感染対策で 現場の職員に自信と安心を

定山溪病院
看護部
副看護部長 **梅津 光香**



当病院では「ウイルスを持ち込まない」を目標に、患者さんと職員に対し、徹底した感染対策を実施しました。特に職員に対しては、少しでも具合が悪ければ出勤しないこと、家族に感染者が出た場合は迷うことなく報告すること呼びかけました。昨年、N95マスクの使用を決めたときは「そこまで慎重にならなくても」という意見も出ましたが、患者さんと職員を守るために、厳重ともいえる対策を行いました。職員にとっても「ここまで徹底し

ているのだから」という自信と安心につながったのではないかと思います。

陽性者が出た場合に備え、職員の行動の記録や管理も重視しました。例えば、出勤と退勤時の職員送迎バスではいつ、誰が、どこに座ったかまでを詳細に記録しました。2021年1月に陽性者が1名出た際も、こうした仕組みができていたことで接触者の調査やリスクの判断が迅速にでき、院内で感染が広がることもありませんでした。

以前から当病院ではICTが熱心に活動しており、感染症に備える意識が組織内に根づいていたことが、今回の感染対策に役立ちました。また、オンライン会議によって、溪仁会グループ内で情報を共有できたことも心強く感じました。これからも現在の対策を継続しつつ、地域のワクチン接種にも協力し、患者さんご家族が当たり前に会うことができる日常を早く取り戻せるように貢献したいと考えています。

コミュニティホーム白石 通所リハビリテーションの事例

きめ細かい対策で通所サービスを維持

コミュニティホーム白石の通所リハビリテーションでは、利用者さんが安心してサービスを受けられるように、細かなルールを決め、感染対策を行っています。施設に入る際のマスク着用や手指の消毒、検温に加え、食堂ではテーブルに仕切りを設置。1時間に1回室内の空気を入れ替え、共用している車いすやトレーニングマシン、送迎車などは使用するたびにアルコール消毒を行っています。また、利用者さんが入浴する際は、脱衣が終わった後にマスクを外していただき、入浴中もなるべく会話をしないこと、入浴後はすぐにマスクを着けることを呼びかけています。職員は密を避ける行動や健康管理を徹底しながら、利用者さんの健康維持をサポートしています。



利用者さん同士の接触を減らす取り組みを行っています

手稲つむぎの杜の事例

持ち込まない・広げない対策を実施

特別養護老人ホームである手稲つむぎの杜では、新型コロナウイルス感染症の発生当初から「持ち込まない・広げない」を念頭に、感染経路を断つ対策を実施。ご家族との面会中止のほか、差し入れの持ち込みや洗濯物の持ち出し・持ち込みの中止をお願いしました。さらに、職員の感染対策として職員食堂では対面にならないようにテーブルとアクリルボードを配置し、食堂以外にも職員が食事や休憩ができるスペースを確保しました。また、介護職員が食事の介助や口腔ケアをする際にはフェースシールドの着用を徹底し、全職員に1日2回の検温と体調確認を実施しています。併設のデイサービスでは、利用者さんへの検温や到着時の手指消毒を行い、利用者さんが使うテーブルにも同様にアクリルボードを設置して感染防止に努めています。



施設の受付前に非接触体温測定器を設置しました

きもべつ喜らめきの郷の事例

学校休校時に子育て中の職員を支援

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、2020年2月27日から道内の多くの小中学校が休校になりました。きもべつ喜らめきの郷には子育て中の職員が多いことから、同施設内で利用者さんとは接触しない環境をつくり、職員のお子さんを預かる対応を行いました。ご家族との面会制限をお願いしている時期でしたが、職員が仕事を休むことなく安心して働けるように支援することで、提供するサービスの質を確保しました。

株式会社ソーシャルの事例

メールや電話を活用した感染対策

集合形式の研修が行えない中、ヘルパーサービスを提供する株式会社ソーシャルでは、新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた意識啓発の取り組みとして、厚生労働省や札幌市の資料から重要な情報を抜粋し、職員にメールで配信しています。また、職員に貸与している携帯電話を通して個別に会議を行い、感染予防に関する注意喚起を実施。2021年6月からはWebも活用し、感染対策がよりわかりやすくなるように工夫しています。

新型コロナウイルス感染症発生時の 病院・施設での対応

浜仁会グループでは、病院や施設において新型コロナウイルス感染症が発生した際、速やかに報告を行い、対応にあたる組織体制を築いています。

2020年11月から2021年6月にかけて当グループ内で発生した新型コロナウイルス感染症への対応をご報告します。

感染対策の専門チームが早期収束をサポート

手稲浜仁会病院では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大とそれに伴う被害を最小限に食い止めることを目的に、独自の組織としてCOVID-19機動対策チームを立ち上げました。同チームは感染対策の専門知識を持つ医師と看護師、医薬品や資器材管理を行うロジスティクス担当者によって構成され、グループ内の病院や施設において新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生した際、要請を受けて現地に赴き、現地対策本部の活動や関係機関との情報共有・連絡調整などをサポートします。さらに、必要に応じて感染対策や医療支援にも携わります。



COVID-19機動対策チームは病院・施設の要請を受けて早期から現地に入り、さまざまな支援を実施します

同チームが陽性者発生の初期段階から支援を行うようになったことで、当グループ内の病院や施設では陽性者発生時の対応が明確になり、感染拡大の防止や迅速な収束に結びついています。また、ゾーニングや検査体制などに対し、専門的なアドバイスを受けられることで、職員の不安の軽減にもつながっています。

こうした取り組みは、患者さんや利用者さんの生命を守り、地域の医療・福祉を支えるという当グループの使命を果たすためのものです。同チームはその要として現場を継続的に支援し、1日も早い収束に向けて尽力します。



集団感染発生時、対策本部では各部門の責任者や感染対策担当者、COVID-19機動対策チームなどが協力し、収束を図ります

災害医療の原則を応用 迅速な医療の介入で収束を図る

手稲浜仁会病院
救命救急センター副センター長
救急科部長 大西 新介



2021年5月に、札幌西円山病院と西円山敬樹園において新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生した際、当病院のICNの資格を持つ看護師とロジスティクス担当者と共に支援活動を行いました。どちらも高齢者の多い環境であり、それまでの他の施設の事例からも、できるだけ早期に医療支援を開始することが重要だと考えていました。5月1日の発生確認を受けて、対策チームの派遣が決まり、3日に現地に入りました。



現地対策本部への支援活動などを行いました

当病院では2020年11月から2021年1月にかけて集団感染が発生していました。そのときの対応やDMAT（災害医療派遣チーム）での経験を活かし、アドバイスや医療支援を行いました。情報収集や伝達、評価、治療などの災害医療の行動原則を集団感染に応用できたことも迅速な対応につながりました。

支援活動を通じて感じたのは、当病院や医療法人本部の強固な協力体制でした。資材の調達や人員の応援要請など、すぐに応えてもらったことで、私たちは現場の支援に専念することができました。また、現地の職員からの情報提供やサポートにも助けられました。私たちが活動を終わるのと入れ替わりで、当病院から呼吸器内科の医師が現地に入り、支援を継続したことも功を奏し、両施設とも約1カ月で集団感染を収束させることができました。

浜仁会グループの病院・施設における新型コロナウイルス感染症発生時の対応

手稲浜仁会病院	2020年11月18日に陽性者発生、接触者調査を実施するとともに医療法人浜仁会法人本部に報告▶関連病棟の新規入院・退院の中止や救急受け入れの一部制限、一部の手術の延期などを実施▶21日に札幌市保健所より集団発生と認定され病院名を公表。対策本部を設置▶一部の病棟の縮小や休棟を行い、マンパワーを確保▶11月末までに職員1,550名の検査が終了▶12月以降、感染対策を徹底しつつ通常診療を順次再開▶2021年1月18日に完全収束
札幌浜仁会 リハビリテーション病院	2021年4月10日に陽性者発生、医療法人浜仁会法人本部に報告するとともに経緯を公表▶札幌市保健所と連携し、接触者への検査を実施▶感染拡大を防止しつつ通常の診療体制を維持▶医療法人浜仁会法人本部と手稲浜仁会病院を交えオンライン会議を実施▶19日までに接触者への検査が完了▶25日までゾーニング等の強化を継続し、陽性者発生への対応を終了
札幌西円山病院	2021年5月1日に陽性者発生、接触者の調査を進めるとともに医療法人浜仁会法人本部に報告▶2日に札幌市保健所より集団感染と認定され、外来診療などを中止▶9日に手稲浜仁会病院の対策チームが支援を開始▶11日に札幌西円山病院・西円山敬樹園の陽性患者さんを一カ所に集約して治療するため「新型コロナウイルス感染症専用病棟」60床を開設▶6月5日に完全収束、それ以降も新型コロナウイルス感染症専用病棟は市中の感染状況にあわせて15床を継続運用
西円山敬樹園	2021年4月28日に陽性疑い発生、社会福祉法人浜仁会法人本部に報告▶30日に陽性が確定し、現地対策本部を設置▶手稲浜仁会病院の対策チームが支援を開始▶接触者への検査を実施▶集団感染となり、社会福祉法人浜仁会の各施設より応援職員の派遣を開始▶陽性者と疑似陽性者を札幌西円山病院で受け入れ▶施設内の除菌作業を実施▶中・低リスク者への検査を継続▶5月28日に完全収束

集団感染発生の振り返り報告会を実施

札幌西円山病院と西円山敬樹園で発生した集団感染について、2021年7月19日に「2021年度浜仁会グループCOVID-19クラスター発生の振り返り」を実施しました。対象の2施設のほか、手稲浜仁会病院や浜仁会グループの各病院、医療法人浜仁会法人本部、社会福祉法人浜仁会法人本部などから約260名が参加。Web会議ツールで各会場をつなぎ、集団発生の概要説明、時系列による活動の振り返りなどが、現場で対応にあたった職員のコメントを交えながら行われました。集団感染の経緯や感染拡大を防ぐ取り組み、浜仁会グループのネットワークを活かした支援など、詳細な情報を公開し、グループ内で記録に基づいた課題を見つけ、改善策を共有することで、今後の新型コロナウイルス感染症対策につなげていきます。



浜仁会グループの各病院・施設から多くの職員が視聴しました



振り返り報告会をまとめた冊子を作成しました

持続可能な
未来をめざして

Kick Off!

～溪仁会グループはSDGsへの

SDGs SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

取り組みをスタートしました～

SDGsとは？

世界全体で取り組む、課題解決のための17の行動目標

貧困や紛争、環境破壊、感染症の拡大など、現代の社会は多くの課題を抱えています。2015年9月の国連サミットにおいて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、その中で、2030年までに達成すべき具体的な行動目標として示されたのが、17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」です。溪仁会グループでは2021年よりワーキンググループを立ち上げ、SDGsへの本格的な取り組みを開始しました。



2

TOP'S EYE

新たな価値の創造も

組織変革を促し、

取り組むべき目標

SDGsはすべての人が



溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長
田中 繁道

私たち溪仁会グループは2004年にCSR経営を宣言し、組織の社会的責任を果たすための活動を推進してきました。SDGsはすべての人々が取り組むべき目標であり、当グループにおいても組織全体でその達成をめざすことが社会的責任であると考えています。SDGsには、社会や環境、経済などにおいて取り組むべき課

題が、具体的な目標と共に示されています。各項目への取り組みが、自ずとCSR経営の推進になると考えています。

SDGsは、特別なことを新しく始めるのではなく、身近なことから行動を起こせるのが特徴です。例えば、普段使っている医療材料や福祉用品が、どこで何を素材にして作られ、どういう経路で手元に届き、使用後はどのように処理されているのか、と考えることで、世界で起きている環境や人権の問題が見えてくる場合もあるでしょう。ささいなことであっても、その解決に向けて考えたり、努力したりする過程で、発想の転換や新たな視点が生まれ、イノベーション＝「新たな価値を創出する」ためのきっかけになることを期待しています。

SDGsの各項目の解説の中で、印象的なのが「包摂（inclusion）」という言葉です。近年は多様性を尊重する時代になりましたが、「包摂」には、それをさらにもう一步進め、多様な人々を組織に取り込み、それぞれの能力を活かして活躍してもらうという、積極的な姿勢が示されていると感じました。これはとても大切な概念であり、当グループの指針となる言葉だと思っています。

小さな気づきであっても、それによって一人ひとりの行動が変われば、組織も社会も大きく変わっていくでしょう。当グループはSDGsへの取り組みを通して組織に変革を起こし、持続可能な社会の実現に貢献することをめざしていきます。

Q&A 溪仁会グループとSDGs

溪仁会グループではワーキンググループのメンバーが中心になり、SDGsへの取り組みを進めています。今後の取り組みの方針や展望について聞きました。

どういふふうに取り組んでいく？

SDGsの概念を業務と関連づけることで目標が明確に

医療法人溪仁会
総務人事部 総務人事課 課長代理
兼 KMS推進室 課長代理



永谷 翔

現在、溪仁会グループの各施設から選出された代表者5名に、医療法人溪仁会法人本部と社会福祉法人溪仁会法人本部の担当者を交えたワーキンググループが、当グループにおけるSDGsの進め方について検討しています。SDGsには具体的な目標が示されており、それらに自分たちの業務をあてはめて考えることで仕事の根拠や価値が明確になり、より自信を持って仕事に臨めるようになるのではないかと考えています。そうした取り組みの結果として、当グループが掲げるCSR経営の強化やイノベーションを促進することも目標の一つです。今後は第4期中期5ヶ年経営ビジョンである「ビジョン溪仁会2025」の各項目との照らし合わせや、病院・施設・法人における業務との関連づけを行い、SDGsの概念を各種目標へ反映させていくことが目標です。

職員へどのように浸透させる？

SDGsへの理解や取り組みを通し当グループが掲げる理念の実践を

医療法人溪仁会
コンプライアンス室 室長補佐



川井田 能史

当グループはCSR経営を推進しており、コーポレートスローガンである「『ずーっと。』人と社会を支える」を実践していくためにも、SDGsへの取り組みは必然と考えています。まだまだ聞きなじみのないSDGsという言葉ですが、少しでも職員の理解を促すために、2021年度に発行した『CSR職員ハンドブック』の改訂版では、新たにSDGsの項目を設けています。職員一人ひとりがSDGsと自分の業務との関わりを考え、目標を立てて行動することで、さまざまな社会的課題の解決につながり、それがCSR経営の推進にも寄与することをめざしています。そしていつかSDGsという世界共通の目標が組織内に浸透し、溪仁会グループの文化として根づくことを期待しています。

一人ひとりの行動を促すためには？

SDGsをいかに業務と関連づけ取り組みを促進できるかが重要

手稲溪仁会病院
TQMセンター 課長



佐藤 洋介

溪仁会グループ内に立ち上げられたワーキンググループでは、当グループ全体の活動を振り返り、SDGsと当グループの取り組みを関連づける作業を行っています。その結果を可視化し、今後の当グループのSDGsへの取り組みを職員に示すことが最初のステップになります。大切なのは、現場の職員にSDGsの意義や目標についてわかりやすく伝え、理解してもらうことです。また、SDGsの各項目と業務を関連づけていく際、解釈の仕方などを丁寧にサポートすることも重要になると考えています。今はまだ手探り状態ですが、まずは職員にSDGsを知ってもらい、身近に感じてもらうことをめざしています。そして、仕事やCSRとの関わりを考えてもらうことで、目標の達成につなげていきたいと思っています。

4

Kick Off!

SDGsをテーマに職員合同研修会を開催

2020年10月16日に、SDGsの推進に尽力されている明治大学経営学部特任教授の関正雄氏を講師に迎え、オンライン形式による溪仁会グループ職員合同研修会を開催しました。関氏からは「これからのCSR経営を考える～SDGsの視点から～」をテーマに、SDGsが採択された経緯やSDGsを取り巻く世界情勢、17の目標と169のターゲットの解説、SDGsに取り組む組織に求められる姿勢などについて講演が行われ、SDGsへの取り組みを進める当グループにとって、最新の情報を学ぶ貴重な機会となりました。



ビジョン溪仁会 2025

2020年11月、「ビジョン溪仁会2025」（第4期中期5ヶ年経営ビジョン）が策定されました。これは次の5年間だけでなく、さらにその先も地域に貢献していくため、**溪仁会グループがめざす「あるべきすがた」**でもあります。そのビジョンの下で私たちはどのような組織をめざし、どのような取り組みを進めていくのか、お伝えします。



中期5ヶ年経営ビジョンとは

溪仁会グループは「『ずーっと。』人と社会を支える」という社会的使命の実現をめざし、保健、医療、介護、福祉の複合事業体としてサービスを提供しています。グループの事業活動が地域に貢献するためには、それが地域社会や時代のニーズに合致したものでなければいけません。また、質の高いサービスとは、患者さん・利用者さんをはじめとした受け手の方々からの評価を得られるものである必要があります。そこで溪仁会グループでは5年ごとに「中期5ヶ年経営ビジョン」を定め、組織が進む方向性を共有し、取り組みの効果のデータを集め、検証しながらCSR経営を推進しています。

ビジョン溪仁会2025策定までのプロセス

前回のビジョンでは、2020年度までにグループ各法人・施設が地域において果たすべき機能や役割を、「あるべきすがた」として明確にしました。そこからトップダウンとボトムアップの融合をはかるために、今回のビジョン策定にあたっては各法人・施設の経営管理部門の代表が参加するワーキンググループを結成しました。その会議の中で「ビジョン溪仁会2020」を振り返るとともに、国の方向性、地域のニーズから課題を抽出して描いた「あるべきすがた」と現状を比較し、2040年を見据えて溪仁会グループがめざすべき方向として「ビジョン溪仁会2025」を策定しました。



私たちの「あるべきすがた」

第4期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」は、抽出した課題から導いた7つの「あるべきすがた」で構成されています。



経営ビジョンを貫く柱

独創性
(地域における存在意義の発揮)

一体感
(地域包括ケアシステムの牽引)

客観性
(客観的根拠に基づいた経営の推進)

※第3期中期5ヶ年経営ビジョンから継続

次のページからは、ビジョン実現に向けて実際に動き出している取り組みをご紹介します。

Vision 1 健全経営・健康経営ができるグループ組織

溪仁会グループがビジョンを実現していくためには強い経営基盤が必要であり、それを担う職員一人ひとりが、健康にいきいきと働けることがすべての基礎となります。職員が心身ともに充実した状態で働ける組織づくり・職場づくりに取り組んでいます。

職員のメンタルヘルスを支える「まめやか相談室」

〔溪仁会グループ〕

産業保健支援室 まめやか相談室
保健師・産業カウンセラー
主任 **木村 礼子**



医療法人溪仁会 法人本部
総務人事部 総務人事課
産業カウンセラー・
キャリアコンサルタント
課長代理 **柳沢 容子**

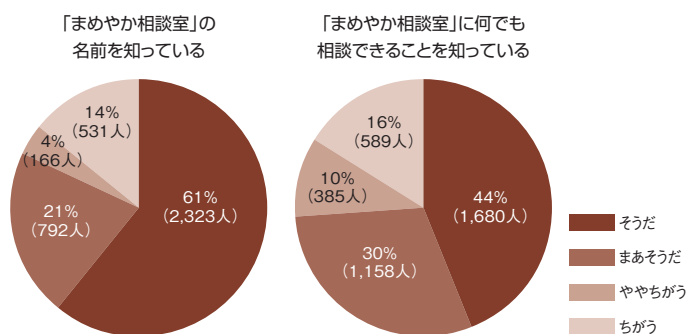


医療や福祉の従事者は使命感が強く真面目で、ストレスをためやすい傾向があります。溪仁会グループでは、職員とご家族のこころの相談窓口として、2014年から産業保健支援室「まめやか相談室」を設置しています。

「5年間で相談室の存在や、メンタルヘルスの大切さが定着してきました」と産業保健支援室まめやか相談室の木村礼子主任は手応えを感じています。年1回のストレスチェックのほか、法人本部主催の新人および新任役職者研修でメンタルヘルスについて話す機会を設けることで、職員の認知度が向上(図1)。個別相談は電話・メールのほかメッセージアプリも活用して受け付け、相談件数は増加しています(図2)。

さまざまな相談に対応する中で、職員がメンタルヘルス不調になる背景には、職員の能力や特徴と、部署側の要求や対応とのミス

(図1) 2020年度まめやか相談室の認知度等に関するアンケート結果

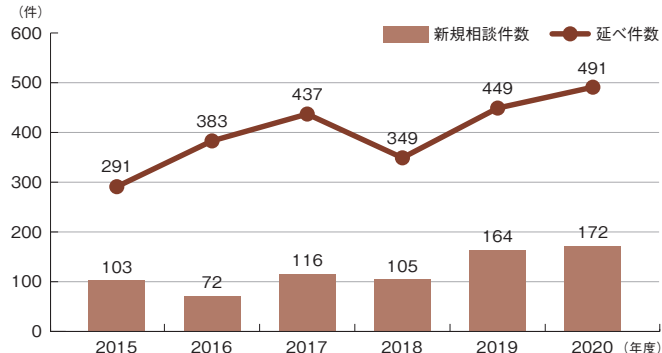


マッチがあることが多いと感じたと木村主任は言います。「簡単なことではないですが、指導や伝達の方法などを見直すことが、誰もが働きやすい環境への改善につながることもあります。対応は早期であるほど望ましいので、介入事案が起こった後の対応も重要ですが、発生を予防する環境改善がこの先はさらに重要です」

そのために、管理職やリーダー職のマネジメント力が発揮されることも必要と話すのは、法人本部研修事業にも携わる柳沢容子総務人事部総務人事課課長代理(産業カウンセラー)です。「管理職の職員にも研修でメンタルヘルスの知識を習得してもらい、現場をマネジメントする立場からの相談を増やしたいとも感じています」

職員一人ひとりが、組織の中で大切にされていることを感じ、自身の持つ力を存分に発揮できる組織をめざし、まめやか相談室は「何でも相談できる場」であり続けます。

(図2) まめやか相談室相談件数の推移



More Actions

働きやすい職場づくりの取り組みが各種認定を取得

溪仁会グループの働き方改革への取り組みや、職員の健康増進を目的とした取り組みが認められ、2020年度にさまざまな認定を取得することができました。



社会福祉法人溪仁会「北海道働き方改革推進企業」シール認定(2020年4月20日)



医療法人溪仁会「札幌市がんだ対策認定企業」プラチナクラス認定(2020年8月13日)



医療法人 溪仁会・社会福祉法人 溪仁会「健康経営優良法人(大規模法人部門)」認定(2021年3月4日)



Vision 2 意思決定プロセス体制が構築されたグループ組織

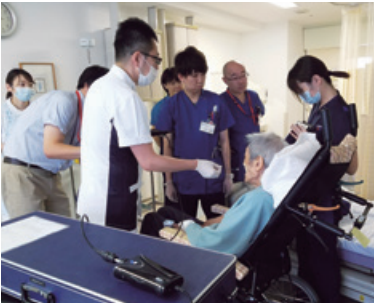
サービスの質を継続的に向上させ、組織が永続的な発展を続けていく鍵は、データや記録など、客観的事実を集め、それに基づいた判断ができる組織になること。一つ一つの現場で、その意思決定プロセスを重視して取り組みを進めています。

嚥下機能評価のための短期入院プログラムを開始

〔定山溪病院〕

加齢や脳卒中の後遺症、神経難病などによる摂食嚥下障がい、誤嚥性肺炎や窒息、低栄養、脱水など、命に関わるリスクにつながります。介護施設や在宅療養では食事提供に困難が生じることも多いため、定山溪病院では従来入院患者さんに実施してきた嚥下機能評価を提供する短期入院プログラムを開始しました。医師、言語聴覚士を中心として多職種チームを組み、診察、血液検査、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を実施。全身状態を評価し、専門の立場から意見を交わして、患者さんが安全に食事で

きる方法を探ります。このプログラムによって通院困難な重度の方や、遠方の患者さんの評価も可能となりました。これを地域での生活のリスク予防や適切な栄養管理へつなげていきます。



病室での嚥下内視鏡検査の様子

外来栄養指導の継続効果を検証し目標達成率向上

〔手稲家庭医療クリニック〕

手稲家庭医療クリニックでは、生活習慣病の方などを対象に管理栄養士が月平均100件の外来栄養指導を実施しています。受診に合わせた栄養指導では、再来までの期間が空きがちで中断も多く、十分な効果が見られないことから、必要に応じて月1回の外来栄養指導を推奨しています。この継続効果を数値化して検証したところ、指導の中断は10%減少。患者さんのBMI値やLDLコレステロール値は、数値改善が認められる割合が増加しました。この検証により、食事療法の効果をデータから客観的に導くこ

とができ、指導の改善や医師との連携向上にもつながっています。



管理栄養士による外来栄養指導風景

訪問リハビリ利用者を対象に転倒リスクの指標化を実施

〔札幌溪仁会リハビリテーション病院〕

在宅での転倒リスクの評価は、その人ごとに症状や障がいの状況はもちろん、環境も異なるため専門的な知識や技術を必要とし、評価にも時間がかかります。札幌溪仁会リハビリテーション病院では、訪問リハビリテーション利用者を対象とした、独自の転倒リスクスクリーニングスケールを作成しました。まずは理学療法士が転倒因子となりうる項目を選択し、さらに利用者さんに事前調査を実施し、項目を絞り込みました。訪問リハビリスタッフ、ケアマネジャーやヘルパーなど連携する多職種からの情報と、初回アセスメントで得

た利用者さんの状況をもとに、71名の利用者さんに評価を実施。その結果を分析し、より精度の高い指標をめざしています。

転倒リスクスクリーニング検査用紙	評価者:
転倒リスクスクリーニング検査用紙	
項目	チェック欄
平衡感覚障害がある(めまい等)	☐
両脚がある(両脚で下下段どちらかが1-4, ASIA分類A-C)	☐
認知症状がある(深部障害がある、もしくはDSM-5の基準に当てはまる)	☐
睡眠安定剤服用中	☐
鎮痛剤服用中	☐
転倒歴(過去1年以内): あり / なし	合計: /5点

作成した転倒リスクスクリーニング検査用紙

Vision 3

社会・地域・時代のニーズに合った 機能重視の病床運用ができるグループ組織

医療・介護需要は増加している一方、将来需要を見極めた対応も必要とされます。

入院はもちろん、すべての機能で質の向上と効率的な運用を図り、より良いサービスを提供することで地域のニーズに応えていきます。

健診受付体制の変更により 受診者サービス向上へ

〔漢仁会円山クリニック〕

漢仁会グループの保健の機能を有する漢仁会円山クリニックでは、年間約5万6,000件超の人間ドックや健康診断を実施し、疾患の早期発見や予防に取り組んでいます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、緊急事態宣言が出た5月は健診活動を休業することになりました。「6月1日からは受付人数を絞って再開しましたが、人数制限を続けるとキャパシティが足りず、健診を受けられない方が出てきてしまいます。休業中に話し合いを進め、受付や受診の流れを見直し、大きな方向転換をすることにしました」と八十嶋英人経営管理部経営管理課長は話します。

それまでは午前の部と午後の部の2回、決まった時間に受診者を集めて一斉に検査を進める方式でした。しかし時間のかかる検査では待ち時間が増え、受付や検査の待機スペースに受診者が滞留することもありました。そこで7月1日から午前、午後という部門を設定せず、7:45～14:15の間、15分間隔で受付を行い、受診者を分散させる体制に移行しました。

これにより、滞留による混雑は解消。受診者からは「検査の待ち時間が短くなった」「検査がスムーズになった」と好評でした。また、時間が空きがちだったオプション検査も含め午前中に完結させることができるようになるなど、サービス向上



漢仁会円山クリニック
経営管理部 経営管理課
課長 八十嶋 英人



につながっています。

もう一つの効果として、現場の職員にも変化が見られたと八十嶋課長は言います。「動き方が変わること当初戸惑いの声はありましたが『どうすればうまく回るか』という意識に変わっていききました。今では改善について話し合うリーダー会議に、現場スタッフからの意見やアイデアもあがるようになり、業務改善や効率化に役立っています」。今後は外部医師が関わる検査も含めて効率の良い日程を実現できるよう、外部との調整を進め、さらなるサービス向上をめざしていく予定です。

More Actions

札幌漢仁会リハビリテーション病院の機能強化

札幌漢仁会リハビリテーション病院では、専門職による24時間体制のケア体制を実現するため、介護福祉士を配置。2021年3月までに47名の配置を進めました。また、退院後の患者さんや地域の障がい者などに自主トレーニングの場を提供する「リ・クリエイト桑園」は、2020年12月からコンディショニングなどの有料オプションメニューを開始し、内容の充実を図っています。



リ・クリエイト桑園

Vision 4

多岐にわたる事業・機能戦略を確実に遂行できる 人財の育成・管理体制が構築されたグループ組織

保健、医療、介護、福祉の事業を展開する漢仁会グループのサービスは、多くの職員によって支えられています。

多様な人たちがそれぞれの能力や個性を活かして働くことができる組織体制の構築を進めています。

多様な人が働く組織づくりを視野に 外国人技能実習制度を活用

〔きもべつ喜らめきの郷〕



きもべつ喜らめきの郷
施設ケア部 ユニットリーダー
須田 三郎



かという期待がありました」と話します。

技能実習生の受け入れにあたり、同施設ではマニュアルなどをスムーズに読めるように漢字に振り仮名を付けました。また、介護の専門用語は省略せず、正しい表現を使うようにしました。受け入れ後の半年間は、実習生に担当者が付いて業務をフォロー。業務の振り返りとして女性職員が週に1回面談し、悩みや意見を聞くようにしました。「工夫したのは、伝えた内容を日本語で復唱してもらうようにしたこと。指導の内容をより深く理解でき、さらに日本語の能力を伸ばすことにも役立っているようです」（須田ユニットリーダー）。他にも、慣れない環境で暮らすことへの不安を軽減するために、勤務時間以外でも役職者と連絡が取れる体制を

を整え、すぐに対応できるようにしています。

「技能実習生は学ぼうという意識が高く、利用者さんに丁寧な日本語で礼儀正しく接する姿に、私たちの方が教えられることも多いです」と須田ユニットリーダーは言います。同施設では2021年にミャンマー人の技能実習生が新たに2名加わり、さらにフィリピンからの特定技能外国人2名も受け入れています。また、以前から外国人技能実習生の受け入れ準備を進めていた定山漢病院でも、ミャンマー人6名が2021年3月より講義と実技を交えての実習を始め、介護職としての実践力を養っています。

社会の高齢化が進行する中、介護の担い手不足が大きな課題になっています。2017年11月に外国人技能実習制度に介護職種が加えられたことを受け、漢仁会グループでは技能実習生の受け入れに向けた検討や環境整備を開始。2020年4月に、きもべつ喜らめきの郷とるすつ銀河の杜において、ミャンマーからの技能実習生を1名ずつ受け入れました。きもべつ喜らめきの郷で外国人技能実習生の教育やサポートを担当する須田三郎施設ケア部ユニットリーダーは「技能実習生を受け入れることで、既存の職員が自分たちのケアの質を見直す機会にもなり、共に成長できるのではない

More Actions

職員の能力を伸ばす漢仁会グループの研修システム

漢仁会グループは、職員一人ひとりが社会人、職業人、組織人としてキャリアアップを図ることができるように、階層別、年代別、テーマ別の研修を実施しています。現場でのスキルアップに役立つ実践的な研修に加え、組織において求められるマネジメント能力やヒューマンスキルを養う研修も重視しています。また段階に応じ

て必要な研修を受けることができる研修体系を構築しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、集合形式の研修が実施できず、リモート形式による研修に一部切り替えての開催となりました。2021年度は少人数単位やリモートでも受講できる体制を整備し、スムーズな研修の実施に取り組んでいます。

Vision 5 利用者視点による シームレスサービスが提供できるグループ組織

溪仁会グループでは社会の高齢化を見据え、グループ内外との連携体制を強化しながら、在宅・外来・入院など多様なニーズに対応するための取り組みを推進しています。

地域での在宅生活を支える 多機能慢性期病院の取り組み

〔札幌西円山病院〕

札幌西円山病院
つながる地域サポート部 医療福祉相談課
課長代理 鈴木 基之



札幌西円山病院は1979年の開院以来、高齢者を中心とした慢性期医療に取り組んできました。近年は地域で暮らす人を支える活動にも力を入れ、外来機能や在宅との連携を強化しています。2016年に神経内科総合医療センターを、2017年には生活習慣病・高齢者総合外来を開設し、高度な専門医療を提供。脊椎椎体骨折（圧迫骨折）や摂食・嚥下（食べる・飲み込む）障がいへの対応も始めています。

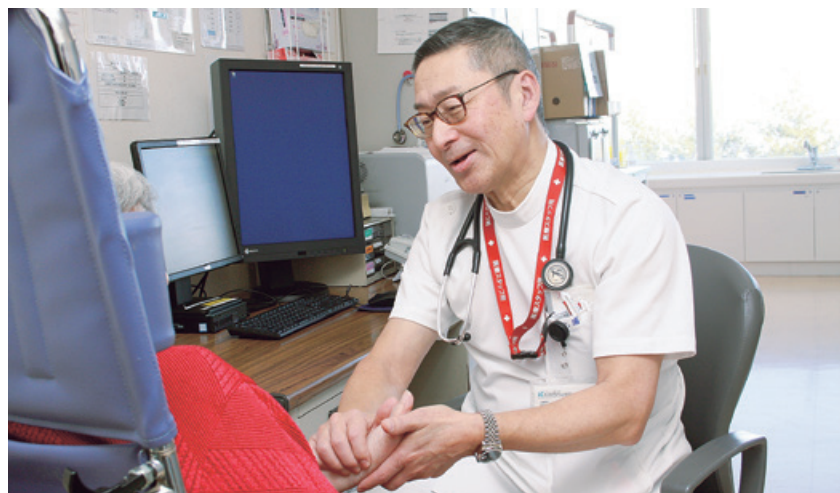
同病院の機能の変化について、つながる地域サポート部鈴木基之医療福祉相談課課長代理は「救急車を呼ぶほどではないが、ご自宅での生活には不安があるというご相談を受けることが多く、院内会議で検討を重ねる中で、在宅復帰に向けた治療や在宅生活の支援にも積極的に取り組むことになりました。従来の慢性期医療の枠にとどまらない幅広い役割を受け持つことから、当病院では“多機能慢性期病院”と位置付け、独自の取り組みを展開しています」と説明します。

地域の居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、クリニックなどに対し、同病院の活動を周知したことで、入院の相談の数も増加してきています。鈴木課長代理は、同病院の機能が認知され、評価されていることを感じるといいます。「必要時には、同じグループの定山溪病院をご紹介します場合もあります。患者さんやご家族にとって最

善の対応を考え、解決を図ることをめざしています」

また、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、発熱している方の受け入れ制限や入院前のPCR検査を必須とするなど、入院調整の流れも大きく変えざるを得ない環境下となりました。このような中でも、院内でのPCR検査導入や療養環境の整備を行うことで、安全にできる限り多くの方に利用していただけるよう体制を見直しました。

「地域の施設や医療機関、グループ内の各病院とも連携し、地域の人が抱える課題やニーズに対応していくことが重要です。当病院はそれらをつなぐハブとしての役割も果たしていきたい」と鈴木課長代理は目標を語ります。札幌西円山病院は地域の人の視点に立ち、多機能慢性期病院としての使命を追求していきます。



More Actions

地域療養を支えるモデルスタッフを育成

〔手稲溪仁会病院〕

手稲溪仁会病院は2017年から、治療を終えた患者さんの在宅療養を地域の多職種と協働しながら支援する専門スタッフの育成に取り組んでいます。初年度の対象は看護職のみでしたが、2018年からは「地域療養支援モデルスタッフ」の名称で、看護師のほか、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフなどの受講希望者から選抜。受講者は退院支援から在宅患者さんのフォローまでを実践的に学び、地域での在宅療養を支援しています。



Vision 6 在宅への対応が強化されたグループ組織

少子高齢社会の中で、救急対応や看取りなど在宅の医療や介護の拡充は急務です。また、地域には高齢者だけでなく、さまざまな年代の支援を必要とする方がいます。グループの力で、これまでの枠組みを超えるような在宅サービスの実現をめざします。

児童デイサービスぱぷりかの活動

〔青葉ハーティケアセンター〕

児童デイサービスぱぷりか
所長
長澤 美帆



専門的なリハビリに加え、遊具やおもちゃでの遊びやスタッフとの会話など、多方向からお子さんの発達支援を行います

2020年8月1日に、青葉ハーティケアセンター内に「児童デイサービスぱぷりか」が開所しました。未就学児のお子さんと保護者の方を対象に通いで個別の児童発達支援を行うほか、小学生から高校生の障がい児への放課後のデイサービス、保育所や学校への訪問支援や、通いが難しいお子さんへの居宅訪問支援も提供します。

「以前は小児の訪問リハビリに従事していましたが、医学的なリハビリだけでなく、お子さんが成長後に社会の中で生きていくため

の支援も必要だと感じていました。その時社会福祉法人溪仁会も、高齢者介護以外でも、地域で支援を必要とするさまざまな方にサービスを広げようとしており、児童デイサービスの開設に至りました」と開設の中心となった長澤美帆所長は話します。ぱぷりかには作業療法士・理学療法士・言語聴覚士を軸に、保育士やソーシャルワーカーなど専門職も在籍します。その専門性を活かしながら、支援計画の下でお子さんの成長に必要なことを、協力して考え提供しています。「障がい種別は問わず、支援を必要とするお子さんや親御さんに来ていただき、お子さんができることを積み重ねて成長できる場所でありたいです。さらに理想を言えば、ぱぷりかが特別な場所ではなく、普通に自然な存在であるような地域や社会をめざしてい

たいですね」と、長澤所長は支援の輪を広げていくことにも意欲を見せます。

新型コロナウイルス感染拡大下での開設となり、厳重な感染対策をしながらのサービス提供が続きます。「この状況が収まった後には、青葉ハーティケアセンター内という場を活かした交流はかっっていくなど、お子さんの世界を広げていきたいです」と長澤所長は今後の目標を話しました。

More Actions

定山溪地区の在宅療養を支える「訪問看護エール」開設

〔定山溪病院〕

定山溪病院は、これまで在宅療養支援として訪問診療・訪問歯科診療、訪問リハビリテーション、訪問栄養食事指導に取り組んできました。同病院のある札幌市南区には訪問看護事業所が少ないことから、2021年4月に「みなし指定訪問看護事業所 訪問看護エール」を開設しました。

訪問看護エールには老人看護専門看護師の所長、長年訪問看護に従事したスタッフの常勤2名とリリーフ（助勤）5名のスタッフが在籍しています。それぞれの専門的知識や経験を合わせて協力しながら、在宅で療養される難病患者さんや終末期の患者さんを支えています。2021年8月現在の登録者は16名、訪問件数は64件です。

人と社会を支え続ける組織であるために ～2040年に向けた組織ビジョン～

溪仁会グループの第4期5ヶ年中期経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」では、
最重要項目に「2040年を見据えたグランドデザインが可視化できているグループ組織」を掲げています。
医療・福祉を取り巻く環境が激変する中、溪仁会グループはどうあるべきなのか、未来につながる提言をいただくために、
大学から有識者をお招きし、医療法人溪仁会・社会福祉法人溪仁会の両理事長と意見を交わしていただきました。

社会福祉法人溪仁会 理事長
谷内 好

青山学院大学法学部を卒業後、株式会社ほくさん(現エア・ウォーター)を経て1988年に医療法人溪仁会に入職(専務理事・グループ統括本部長)。2004年に社会福祉法人南静会(現社会福祉法人溪仁会)理事長就任、2014年より医療法人溪仁会理事顧問兼務。

北海道医療大学
看護福祉学部看護学科
地域保健看護学講座 教授
竹生 礼子氏

千葉大学看護学部卒業。北海道医療大学大学院看護福祉学研究所修士課程修了、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所博士課程修了を経て、2017年より北海道医療大学看護福祉学部教授。2019年に同学部看護学科長に就任。

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長
田中 繁道

札幌医科大学医学部を卒業後、札幌医科大学内科学第2講座に入局し、講師、助教授を経て、1997年に手稲溪仁会病院に入職(副院長)。手稲溪仁会病院院長を務めた後、2014年に医療法人溪仁会理事長に就任する。

小樽商科大学 大学院商学研究科
アントレプレナーシップ専攻 教授
猪口 純路氏

小樽商科大学商学部卒業。神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位修得退学、広島市立大学国際学部准教授を経て、2012年に小樽商科大学准教授。2015年より同大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授。

溪仁会グループの社会的使命を支え 人を育む、CSR経営の理念

田中 今日は北海道医療大学の竹生教授、小樽商科大学の猪口教授に、溪仁会グループが今後めざすべき姿や2040年を見据えたグランドデザインについてご意見をうかがい、今後の組織運営に役立てたいと考えています。よろしく願いいたします。

谷内 社会福祉法人溪仁会は公益法人として独自のマネジメン

トに取り組みながら、溪仁会グループとして医療法人溪仁会と一体となった活動を行っています。医療と介護、福祉の連携がますます重視される中、先生方の率直なご意見をお聞きできるのを楽しみにしております。

竹生 私は2006年から大学の看護教育に携わっております。その前は訪問看護ステーションの管理者をしておりました。溪仁会グループは、ずっと継続して人の一生を支えること、地域を支えることを提唱されていますが、私も同じことを常に学生に伝えています。

今日は、その理念を貫きながら事業を展開していくノウハウなども学ばせていただきたいと思います。

猪口 小樽商科大学と溪仁会グループは経済産業省の事業を通じて連携しており、私自身も医療法人溪仁会の研修会の講師を務めさせていただくなど、以前から関わりがありました。私の専門はマーケティング論ですが、医療・福祉分野にも通じるものがあると思います。今日は、マーケティング戦略や市場志向の視点を交えてお話ししたいと思います。

田中 最初に当グループのCSR活動について簡単にご説明します。組織統治を進めるためCSR経営という概念を取り入れたのが2004年でした。その後、CSR経営を当グループの柱に据え、その実践を通して医療・福祉政策に対応し、経営革新を行ってきました。CSRの理念の下、提供するサービスの質と経営の質の連鎖を繰り返しながら、持続的な経営に取り組んでいます。

谷内 ISOの品質マネジメントシステムの導入やコンプライアンス教育の強化など、さまざまな取り組みを行いながらCSR経営を確立してきました。その間に、医療・福祉サービスを提供する者としての責任や行動基準、いかに組織やサービスをマネジメントしていくかという意識を一般職員から幹部職員までが認識し、共有できてきたと考えています。

竹生 医療や福祉のマネジメントに関する話題は、現場の職員にとっては遠いことだと思っていました。でも、今のお話を聞いて、これからは、医療職も福祉職もマネジメントの意識を持つことが重要なのだと気づかされました。

猪口 私は、溪仁会グループが社会的使命として掲げている「『ずーっと。』人と社会を支える」は、ブランドコンセプトでもあると解釈しています。医療や福祉は公益性が高く、理念がCSRの考え方と近いことが多い。10年以上にわたるCSR経営の上に溪仁会のコンセプトが築かれ、進化してきたのだと感じました。



「ビジョン溪仁会2025」を推進し より実効性の高いものにするために

田中 当グループでは5年ごとに中期経営計画を策定しています。今年スタートした第4期「ビジョン溪仁会2025」は、前期の振り返りで出た課題をどう解決するのかを各組織の経営管理部門が議論し、ボトムアップ形式で素案を作ったのが大きな特徴です。

谷内 目の前の課題を抽出・認識し、中期的な計画を立てることは非常に大切なことです。今後は、そのビジョンを達成するための具体的な戦術を、いかに職員たちに示し、実行してもらうかが重要になると認識しています。

竹生 今回のビジョンはそれぞれの組織が考え、ボトムアップ形式でつくられたということですが、その過程で職員は自分たちのめざす姿をより理解できたのではないかと思います。質問なのですが、達成度の評価もそれぞれがされているのですか。

田中 当グループでは業績評価にBSC(バランスト・スコアカード)を導入しており、各組織の結果を公表し、評価しています。自分た

ちの活動についてPDCA (Plan=計画・Do=実行・Check=評価・Action=改善)を繰り返すことで、業務改善を図っています。

谷内 社会福祉法人でも、独自の中期経営計画をボトムアップ形式で策定しています。BSCについては、十分に使いこなしているとは言いきれないかもしれませんが、自分たちで成果を評価することで、全職員が財務や顧客の視点、事業プロセスなどを認識できる良い手法だと感じています。

田中 先生方にお聞きしたいのですが、組織ビジョンを推進する上で、大切にすべきことは何でしょうか。



猪口 マーケティングの市場志向という考え方では、顧客と競合他社の動きから情報をくみ取り、部門間で共有しながらそれに基づいて行動することを重視します。ただし、専門性が高いプロフェッショナル集団であればあるほど、部門間の壁がしやすいという傾向があり、これは医療・福祉業界も同じだろうと思います。誰に対するサービスなのか、その中で何をすれば満足度は高まるのかを組織全体で共有し、考えていくことが大切だと思います。

竹生 ビジョンは組織を運営していくためのものですが、ひいては地域づくりや地域連携も含まれるのではないかと思います。今回のビジョンには、在宅への対応強化やシームレスなサービス提供が掲げられているので、患者さんや利用者さんが住んでいる地域、そこにある診療所などとも連携を図ることが、ビジョンの実現につながっていくのではないのでしょうか。

谷内 猪口先生のお話にあった部門間の壁を取り除き、組織の一体感を醸成するためにはどうしたら良いと思われますか。

猪口 BSCを活用されているということでしたが、組織全体で共通した評価ツールを使うことによって、課題や問題意識が共有しやすくなり、話も通じやすくなるはずです。こうした取り組みを継続されることが非常に有効だと思います。

竹生 私はやはり対話をする事だと思います。異なる職域間や

組織間では、なかなか本音で意見を交わすのは難しいものですが、そこを乗り越えて対話ができる組織風土をつくることが一体感につながるのではないのでしょうか。

複合事業体としてのメリットを活かし 2040年に向けて組織基盤の強化を

田中 「ビジョン溪仁会2025」の最大の目標は、高齢者人口が最大となる2040年を見据えたグランドデザイン、あるべきすがたの構築にあります。そのための取り組みとして、ブランディング戦略とグループ全体顧客というキーワードを挙げています。まずブランディング戦略ですが、それぞれの病院や施設はよく知られていても、保健、医療、介護、福祉の複合事業体という溪仁会グループのイメージはあまり浸透していないと感じています。

猪口 繰り返しになりますが、『『ざーっと。』人と社会を支える』という社会的使命は、とてもわかりやすいブランドコンセプトだと思います。ブランドはステークホルダーと共有されてこそ強くなります。誰をステークホルダーと捉え、その人に向けてどう自分たちの取り組みを発信するのが重要です。竹生先生も話されていたように、外に向けた発信力が課題になると思います。

竹生 医療や看護の世界での溪仁会ブランドの認知度は非常に高いと感じています。当大学の学生も、実習の際、誇りを持って働く溪仁会グループの人たちを見て、自分もこういう組織で働きたいと思うようです。これはとても大事なことで、職員自身が自分たちの病



院や施設、グループを誇りに思えること、さらに、お互いの病院や施設を誇りに思えるような関係に発展させることができれば、ブランド力はより高まるのではないかと思います。

谷内 私は一つ一つやってきたことの結果が、ブランドになっていくと考えています。誠実に業務に取り組み続け、振り返ったときに、第三者が溪仁会ブランドとして評価してくれるものではないのでしょうか。

田中 複合事業体という溪仁会ブランドを社会に広く知ってもらい、その名に恥じないグループ基盤を築くことが重要だと考えています。もう一つのキーワードであるグループ全体顧客は、複合事業体である当グループのスケールメリットを最大限に活かすことを目標に、病院や施設を利用した方とご家族を当グループの顧客と捉え、他のサービスも切れ目なく提供しようというものです。グループ内の連携や情報共有を促進することで、スピーディーに、自信を持って質の高いサービスを提供できる体制をめざしています。

猪口 今はビッグデータの活用が必須とされる時代です。溪仁会グループでも、日々の業務を通して膨大なデータが集まってくるのではないかと思います。大切なのは、満足させたいターゲットやエリアを明確にした上で、定点観測的にデータの収集とリサーチを続け、分析することです。患者さんや利用者さん本人だけでなく、ご家族や地域の方も含めて情報を収集して読み解き、組織活動に反映していくことで全体顧客の実現性が高まると思います。

田中 まさにその通りだと思います。現在は、病院や施設ごとにデータの収集・分析を始めていますが、まだ経営に活かしていないのが実情です。まずはデジタル化を推進し、企業のマーケティングのように、患者さんや利用者さんのデータを一元的に管理・分析できる体制を整えなければならないと考えています。

谷内 猪口先生から、対象エリアを明確に、というお話が出ましたが、社会福祉法人では人口減少が進む地域でも施設を運営しており、広域な範囲を一つの地域と捉えてマーケティングを展開しています。2040年に向けて、その地域の福祉をどう支えていくかということも、今後の経営課題になると考えています。

竹生 人口減少は本当に大きな課題ですね。利用者さんや働き手が少なくなり、施設や医療機関が撤退すると、さらに人口が減る

という負のスパイラルに陥ります。地域をどう支えていくかということとは、施設単体ではなく、行政や地域住民の人たちも交え、全体で考えていくべき課題だと思います。

猪口 人口推計は、最も外れない統計とされています。ですから今後、確実に患者さん、利用者さんは減少します。溪仁会グループにはその未来を見据え、医療や福祉だけでなく人と社会を支え続けるための新たな事業にも挑戦してもらいたいですね。2040年も元気な組織であれば、地域の人も職員も、溪仁会ブランドの価値を理解してくれるはずだと思います。

竹生 本日のお話を通して、溪仁会グループは社会や時代を読み、先を見据えた事業を展開されているのだとあらためて感じました。2040年に向けて、医療・福祉といった分野に限らず柔軟に事業を展開され、グループ全体が一つの事業体として前進していくことを期待します。そして、これからも働く職員がやりがいと誇りを持って働き続けられる組織であってほしいと思います。

谷内 当グループが事業を始めて42年になります。その間、各病院や施設が良質なサービスの提供のために努力し、さらなる改善を図ってきたことが今日の姿に結びついています。地方の人口減少や働き手の急減など、さまざまな課題はありますが、地域に信頼される取り組みを継続していくことが、組織を持続させる上で大切なのだらうと考えています。



田中 2040年の医療や福祉の姿は、まだ誰にもイメージができません。しかし、「ビジョン溪仁会2025」に基づく取り組みを着実に進めることで、当グループのあるべきすがたはおのずと見えてくると考えています。本日、先生方からいただいたご提言も踏まえ、グループが一体となってブランディング戦略や全体顧客へのサービス提供に取り組みながら、2040年を見据えた組織づくりを進めていきたいと考えています。

本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。

※本ダイアログは2021年8月11日に医療法人
溪仁会法人本部において開催しました

Challenge

一定の診療補助を担う
看護師の養成ニーズに応える

Action

看護師特定行為研修指定研修
機関としてより多くの人材養成を図る

Next Step

修了者が活躍できる環境を整え
医療の質の向上につなげる

看護師特定行為研修 指定研修機関に認定

〔医療法人溪仁会〕

医療法人溪仁会
法人本部
総務人事部
看護・介護担当部長
樋渡 ひとみ



手稲溪仁会病院
看護部 副看護部長
山本 明美



特定行為を担う看護師養成の取り組み

2015年10月「特定行為に係る看護師の研修制度」が施行されました。これは、在宅医療の推進や医師の働き方改革が課題になる中、医師の判断を待たずに手順書に基づいた一定の診療補助（特定行為）を担う看護師を養成し、タイムリーかつ適切な医療の提供やワークシェアリングの推進につなげることを目的としたものです。研修では特定行為を行う際に求められる高度な知識や実践的な技術を養い、在宅医療やチーム医療で活躍する看護師の育成をめざします。医療法人溪仁会法人本部では2020年2月にこの研修を行う「看護師特定行為研修指定研修機関」の承認を受け、同年6月1日に1期生の入講式を行いました。

同法人の樋渡ひとみ総務人事部看護・介護担当部長は「以前は外部の研修機関での受講が必要でしたが、遠方であったため受講者の負担が大きく、人数も1年に1名ほどと限られていました。当グループ内の病院の医師から、研修修了者が増えることによる効果を期待する声が高まり、法人本部として研修機関の承認を取得することになりました」と振り返ります。また、看護師特定行為研修の専任教員を務める山本明美手稲溪仁会病院看護部副看護部長は「研修と仕事の両立には努力が必要ですが、法人内で研修を行うことで職場の理解や協力が得られやすく、研修を担当する医師や看護師からきめ細かな指導も受けられます」と話します。



フィジカルアセスメントの実習風景

高い技能を持つ看護師のロールモデルに

法人内で研修を受けられるようになったことや、2019年から実施頻度の高い特定行為に絞り込んだパッケージ研修が設けられたことで、2020年度の受講者は5名、2021年度は7名と、前年度に比べて増加しました。また、外部からの研修生も受け入れており、手稲溪仁会病院・札幌西円山病院・定山溪病院での実習を交えながら、多様な学びを展開しています。

始まったばかりの看護師特定行為研修ですが、少しずつ効果が出ています。「受講者は、同僚の看護師や多職種との関わりの中で、研修での学びを積極的に実践するようになりました。その姿を見て、自分も受講したいと希望する職員が増えています」と山本副看護部長が話すように、受講者が現場で活躍することによって特定行為を担う看護師への理解や関心が広がり、医療の質の向上にも結びついています。

樋渡部長は今後の目標について「この研修は修了後も実践を通して学びを深めていくことが大切なため、フォローアップの体制づくりを進める予定です。また、修了者が現場で活躍するには規定などの整備も必要になります。ロールモデルとして活躍できるように、修了後もサポートを続けていきたいです」と話します。未来の医療を支える取り組みとして期待を集める看護師特定行為研修。より良い医療の実現に向けて着実に歩みを進めています。



特定行為を想定したOSCE(客観的臨床能力試験)も行われました

Challenge

介護の人財を広く
地域社会から見つけ出す

Action

法人や介護の仕事の
魅力を伝える動画を制作

Next Step

各施設の発信にも
プロの制作した動画を活用していく

介護の仕事の魅力を発信するリクルート動画を制作

〔社会福祉法人溪仁会〕

月寒あさがおの郷
経営管理部 生活相談課
課長代理 山玉 俊宇



職員の姿から法人の魅力が伝わる動画を企画

社会福祉法人溪仁会では、福祉の魅力を伝え、人財を発掘する取り組みをさまざまな形で進めてきました。2020年には人事部と「夢プロジェクト」の『経営・業務の在り方』検討チームが中心となり、広く福祉の仕事の志望者に向けて法人の魅力を伝えるリクルート動画の制作に取り組みしました。

第1弾のリクルート動画は、「ワーク・ライフ・バランス」をテーマに取り上げました。法人内に呼びかけ、オフタイムに生き生きと趣味を楽しむ職員を募り、ベテランと若手の2名を選定。それぞれの趣味の現場で撮影を行い、インタビューを収録しました。「当法人の魅力は何か、自分たちのどういう姿を伝えたいのか考えることは今までにない体験でした。一人ひとりが仕事もプライベートも両立させて、個性を活かして働いているところが強みだと思いました」と、チームのプロジェクトリーダーを務めた月寒あさがおの郷の山玉俊宇経営管理部生活相談課課長代理は、動画のテーマを決めた背景を説明します。

第2弾制作以降は活用方法も検討

撮影や編集作業など、実制作に関わる作業は医療法人稲生会の「みらいつくり研究所」の映像ディレクターが担当しました。「動画制作のプロの視点からアイデアや助言をもらえ、自分たちが

伝えたいことをしっかり表現した動画が作れたと思います。見た方からは『良いものができたね』と好評価をいただきました」と山玉課長代理は手応えを感じています。動画は11月から同法人のYouTubeチャンネルに公開。新型コロナウイルス感染症対策で実習などの受け入れが難しい間、専門学校などの学生さんたちに動画のURLを送り、それを見て法人の雰囲気を理解してもらうことにも役立っています。

その後、第2弾としてリハビリ職員の紹介動画を制作。今後は各施設のPR動画なども必要に応じ制作していく予定です。「制作した動画はSNSなどで紹介していますが、今後は活用のための戦略も必要だと感じました。当施設で動画を作る際は、今回の経験を活かしていきたいです」と山玉課長代理は話します。



2名の職員の働く姿と、趣味を楽しむ姿に、法人が伝えたいメッセージを載せました



社会福祉法人溪仁会
YouTubeチャンネル



VOICE
動画出演のスタッフより
コミュニティホーム白石
介護福祉士
伊豆野 祐介

インタビューを受けたことで、介護を志した時のことをあらためて思い出すきっかけになりました。いつもは動画を撮る側が多いのですが、完成した動画のクオリティの高さに、出演できたことをうれしく感じました。

VOICE
動画出演のスタッフより
円山ハーティケアセンター
介護福祉士
原田 麻由



撮影は緊張しましたが、共演してくださった利用者さんとお互いの緊張した表情を見て笑い合ったのはいい思い出になりました。動画を見た家族や友達から「楽しそうに仕事してるんだね」と好評だったのがうれしかったです。

Challenge 利用者さんの満足度を上げる

Action 感染対策を図りながら
季節の行事を実施Next Step 安全・安心を第一に
行事を継続していく

感染症対策を徹底して施設内行事を実施

〔社会福祉法人溪仁会〕

社会福祉法人溪仁会の各施設では、季節を感じる行事を毎年開催しています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の中では、従来の行事開催は困難となることもありました。コロナ禍にあっても利用者さんに楽しいひとときを過ごしていただくため、職員がアイデアを出し合い行事を実施しています。全行事は溪仁会グループの感染症対策にのっとり、感染防止に配慮しながら行いました。

溪仁会グループの感染症対策

●職員のマスク着用、手指衛生 ●職員の検温等健康状態の管理 ●職員体調不良の際の適切な対応 ●患者さん・利用者さん・取引先に対し、マスク着用・手指衛生・検温の適切な実施 ●面会の原則禁止 ●受付での飛沫防止対応等感染予防策 ●ソーシャルディスタンスの徹底 ●共用部等の消毒、換気 ●職員の「新北海道スタイル」の遵守 ●職員の新型コロナウイルス接触確認アプリの活用

秋の夜長の読書月間

カームヒル西円山では、2020年9月18日～10月30日に「秋の夜長の読書月間」を開催。10月9日には、コーヒーを片手に本について語らうブックカフェを実施し、本についてのトークショーも行いました。



トークショーでは谷内好理事長が推薦する本を紹介

コーヒーをいれる入居者さん

2020年カームヒルの文化週間

例年開催している文化祭に代わり、2020年10月27日～11月6日に「2020年カームヒルの文化週間」を開催。入居者さんの作品を展示したほか、催事も毎日行いました。



バッグを製作した入居者さん

リモートクリスマス会

2020年12月25日、西円山敬樹園にて円山西町児童会館との合同リモートクリスマス会を開催しました。児童からはハンドベルや歌とダンスが披露され、施設からは利用者さんが作ったバスボム（入浴剤）をプレゼントしました。



画面を通して子どもたちとふれ合いました

初詣行事

月寒あさがおの郷では、2021年1月3日に職員が施設内に神社を製作しました。初詣体験ができるイベントを開催すると、たくさんの入居者さんが喜んでお参りしていました。



オンライン落語会

コミュニティホーム八雲では、2021年1月27日にオンラインによる落語会を開催しました。昔昔亭 桃之助さんの演目が始めると、皆さんは画面に釘づけになり、耳を傾けていました。



豆まき

2021年2月には、社会福祉法人溪仁会の各施設で節分の豆まきを行いました。鬼の仮装をした職員が現れると、入居者さんは健康と長寿を願い、「鬼は外、福は内」の掛け声とともに豆を投げました。



きもべつ喜らめきの郷、月寒あさがおの郷は2021年2月3日に実施



コミュニティホーム白石は、2021年2月8日・9日の2日間実施

Challenge

感染拡大防止に配慮し
介護予防を継続

Action

自宅でできるトレーニングを
動画で発信

Next Step

運動や健康づくりにつながる
情報発信を続ける

介護予防につながる体操動画を配信

〔介護予防センター円山・介護予防センター曙・幌西・介護予防センターまえた〕

社会福祉法人溪仁会では、札幌市の委託事業として、介護予防センターを各施設で運営しています。西円山敬樹園にある介護予防センター円山では、定期的に介護予防教室を開催しています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大下では、緊急事態宣言に伴う札幌市の措置に従い、介護予防教室を中止する期間が生じました。同時に、介護予防が必要とされる方々にも外出自粛が要請されることで、運動の機会が失われがちになるため、日々の運動習慣についてより啓発が必要な状況になりました。

そこで、同センターは介護予防センター曙・幌西と共同で動画「自宅で出来る転倒予防体操」を制作し、2020年6月1日に公開しました。この体操は、北海道レクリエーション協会領域団体ケアレクリエーション倶楽部が考案したもので、椅子に座りながら運動ができます。

また、手稲つむぎの杜にある介護予防センターまえたでも、自宅でできる脳トレーニングを紹介する動画を制作・公開しました。今後在宅療養の方や、自宅で過ごす時間の長い利用者さんの健康を守る取り組みを続けていきます。



おうちde
脳トレーニング
(手稲つむぎの杜
YouTubeチャンネル)



自宅で出来る
転倒予防体操
(西円山敬樹園
YouTubeチャンネル)

Challenge

対面や集合形式で
行っていた取り組みの継続

Action

オンラインを活用して
内外の活動を実施

Next Step

開催の効果を検証し
オンライン開催の質を向上

オンラインを活用し各種活動を継続

〔溪仁会グループ〕

新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面や集合を伴う取り組みは、そのままの形での開催が難しくなりました。さまざまな分野で行事の開催方法や規模の見直しがされています。そのため溪

仁会グループではオンラインサービスを活用して、地域住民への情報発信の場、職員のスキルアップの場を設けています。

産前オンライン教室

手稲溪仁会病院母子はぐくみセンターでは、初めて出産を迎える方が安心して出産にのぞめるよう、医師や助産師が産前・産後に役立つ情報を提供する母親教室「Hello! Baby♡クラス～プレママ教室」を毎月第1～第3水曜日に開催しています。

2020年は妊産婦さんを招いて実施できない状況が続いたため、9月18日からはオンラインサービスを用いての開催を始めました。毎回「お産について」「帝王切開」「赤ちゃんとの生活」などのテーマを設け、動画などを交えて説明をしています。同様に、第2・第4土曜日に開催する両親教室「Familyクラス」もオンライン開催に切り替えています。

コロナ禍での出産という不安を抱える妊産婦さんご家族の

不安を少しでも軽減できるよう、母子はぐくみセンターはさまざまな形でサポートを続けていきます。



オンライン母親教室で参加者の質問に答える助産師

2020年度業務改善発表会

2021年3月17日、溪仁会グループ2020年度業務改善発表会を開催しました。各施設・各部署の業務改善に向けた取り組みをグループ全体で共有し、水平展開を図るために昨年度から始めました。コロナ禍ではありましたが、PDCAサイクルを回し業務の効



率化を継続して進めるため開催しました。

発表は2部構成で行われ、第1部では2020年秋に開催した「役職者のための業務改善研修会」参加者の中から選抜された6名による発表が行われました。発表者は音声付きスライドを事前に提出し、質疑応答はライブ配信で行うハイブリッド方式で開催しました。

第2部では、2019年度の優秀演題に選ばれた2名の継続的な取り組み状況および、2019年度に札幌市の職場環境改善事業で表彰された取り組みが報告されました。

■受賞した発表

【最優秀演題】「総合内科病棟業務改善報告」
手稲溪仁会病院 看護部 主任 中島綾子

【優秀演題】「多職種を絡めた情報共有シートの活用」
定山溪病院 リハビリテーション部 主任 有泉涼太

その他オンライン開催した研修

第6回溪仁会グループリハビリテーション研修会

溪仁会グループでは法人や施設の枠組みを超えた職員の交流を生む組織横断的な研修に取り組んでおり、「溪仁会グループリハビリテーション研修会」はその一つです。2020年度は10月25日に、溪仁会ビルをメイン会場にオンラインで開催しました。一般社団法人iADL理事長の榎間 剛氏を講師に招き、脳画像診断をテーマに講義が行われました。



2020年度幹部職員セミナー

2020年度幹部職員セミナーを11月27日にオンラインで開催し、185名の職員が視聴しました。田中繁道グループ最高責任者より、溪仁会グループの第4期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン 溪仁会2025」(P16参照)が発表されました。「ビジョン 溪仁会2020」の振り返りと人口動態推計や受療動向などから見る疾病構造の変化、進行中の社会保障制度などを議論し、地域特性も考慮しながらイメージした「あるべきすがた」から2040年の溪仁会グループがめざすべき方向を示しました。



Challenge

在宅で医療を必要とする
子どもたちを広く一般に知ってもらう

Action

写真展を開催し、医療的ケア児や
家族の日常の姿を伝える

Next Step

他の地域でも開催をめざす

写真展「みんな、とくべつなひとり」を開催

〔医療法人稲生会〕

医療法人稲生会では、2021年3月19日・20日の2日間、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)にて写真展「みんな、とくべつなひとり」を開催しました。医療的ケアを日常的に必要とする子どもたちやその家族、成人の障がい当事者の方々のことを、普段関わる機会のない多くの方に知っていただく場にしようと企画したものです。

道内を中心に全国からも医療的ケアを必要とする子どもたちの普段の様子を収めた写真を募集し、会場には約500点を展示しま

した。そのほか、在宅医療をテーマにした4コマ漫画の展示や、医療的ケア児とそのきょうだいを描いた絵本『ぼくのおとうとは機械の鼻』のムービー放映、木の葉のカードにメッセージを寄せていただき木のオブジェをつくる企画、リーフレットの配布などを実施し、買い物中や仕事帰りの方など、多くの方に足を止めていただきました。

また、患者さん・利用者さんなどで会場に来られない方のために、写真展の様子をYouTubeでライブ配信しました。



『ぼくのおとうとは機械の鼻』のムービー放映



写真展の様子

Challenge

在宅ケアの質向上と
地域ネットワークの形成

Action

地域のケアマネジャーを招き
合同事例検討会を開催

Next Step

オンラインを活用し
安定的に開催を継続する

ケアマネジャー主催合同事例検討会を開催

[定山溪病院]

定山溪病院在宅ケアセンターでは、地域のケアマネジャーを招き「合同事例検討会」を開催しています。地域の居宅介護支援事業所と共に事例を深掘りすることで、ケアマネジメントの質向上や地域ネットワークの構築につなげ、地域づくりにも寄与することをめざす取り組みです。同病院から医師、看護師、リハビリ職など多職種がオブザーバーとして参加することで、多角的な視点の学びにもつながっています。

地域の事業者を集めての開催は、新型コロナウイルス感染症拡大状況下での継続が課題となっていました。少人数開催など工夫をすることで、2020年度は9月12日に開催することができました。学びはもちろん、地域事業者との連携を強化し双方のバックアップ体制を築くなど、参加者や地域にとって有益な場となり続けるよう、今後はオンラインの開催も計画しています。



開催の様子

Challenge

地域交流を進めて
利用者さんの生きがいがづくり

Action

地域の子どもたちと
プレゼントを通じた交流

Next Step

コロナ禍でも可能な
地域交流の形を見つける

利用者さんから子どもたちへ手づくりのプレゼント

[おおしまハーティケアセンター]

おおしまハーティケアセンターでは行事などを通して保育所や学校など、子どもたちを中心とした地域の人々と交流を深め、社会と利用者さんとのつながりをつくり続けてきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まると、子どもたちのマスク不足を心配した利用者さんたちが手づくりの布マスクの製作を始めました。約2カ月かけて200枚のマスクを製作し、2020年6月2日に大島小学校で贈呈式を行いました。ほかにも大島中学校、崎浜保育所や医療関係者にも布マスクの寄贈を行いました。

また、9月には大島中学校と合同で、2020年7月の豪雨で被害を受けた熊本県の球磨村立球磨中学校へ寄贈品を送りました。利用者さんから「豪雨の被災地に元気を届けたい」という意見が出ていたところに、大島中学校が東日本大震災の時に支援を受けた球磨中学校に恩返しする計画があると聞き実現したもので、同センターからは利用者さん手づくりのストラップを贈呈しました。



大島小学校では、利用者さんから代表児童にマスクを手渡しました



その他の活動TOPICS

2020

1月

喉頭全摘患者に対する独自のプロトコルを作成

[手稲溪仁会病院]

喉頭全摘患者のサポート体制強化のため、独自の治療計画を作成し、外来・入院・在宅のスタッフの連携を向上

4月

STVラジオで「医療・福祉ひとくち講座」を4月9日に放送スタート

[溪仁会グループ]

医療や福祉に携わる専門職が出演し、パーソナリティと共に医療福祉の情報を幅広く発信

5月

5月25日、入居さんが地域の子どもたちに手づくりのレターセットをプレゼント

[カームヒル西円山]

6月

回復期リハビリテーション病棟看護師の院内認定制度を新設

[札幌溪仁会リハビリテーション病院]

6月6日よりリーダーレベルの看護師を対象に、半年間の研修プログラムを設け修了者を院内認定

7月

献血運動の推進について厚生労働大臣より表彰を受ける

[手稲溪仁会病院]

9月

気仙沼防火管理者協会より9月9日に防火管理表彰を受ける

[おおしまハーティケアセンター]

地域の障がい者施設と合同研修会を実施

[札幌西円山病院・西円山敬樹園・カームヒル西円山]

「霖雨の邑」と合同で、高齢者と障がい者福祉についての勉強会をオンラインを活用して開催(9月11日のほか10月2日・29日、2021年1月26日に開催)

10月

泌尿器科での「da Vinci」手術1,000例を突破

[手稲溪仁会病院]

ロボット支援前立腺全摘術など、泌尿器科でda Vinciを用いた手術の合計件数1,000例を10月13日に達成

カームヒル西円山で「リハビリ健診」を実施

[札幌西円山病院]

地域住民を対象に同病院内で実施していた健康づくりプログラムを、カームヒル西円山との連携で10月23日に開催。軽い運動を伴う健康チェックや講話などを実施

1月

不育症センターを開設

[手稲溪仁会病院]

不育症について気軽に相談でき、専門的なスクリーニングや治療を行う道内初のセンターを開設

保険適用によるロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術(RASC)を1月6日に道内で初めて開始

[手稲溪仁会病院]

骨盤臓器脱に対する体の負担の少ない手術で、従来の腹腔鏡下仙骨脛固定術より手術精度が向上し、所要時間も半分以下に減少



「医療・福祉ひとくち講座」収録の様子



カームヒル西円山入居さん製作のレターセット



献血運動推進の表彰状



おおしまハーティケアセンター防火管理表彰



カームヒル西円山でのリハビリ健診

数字で読み解く 溪仁会グループ

取り組みの効果を記録し、改善の鍵を探す上でとても大切なものが「数字」です。
ここでは溪仁会グループのパフォーマンスを、さまざまな数字から振り返ります。

地域の救急医療に尽力し続けSランク評価を獲得

[手稲溪仁会病院]

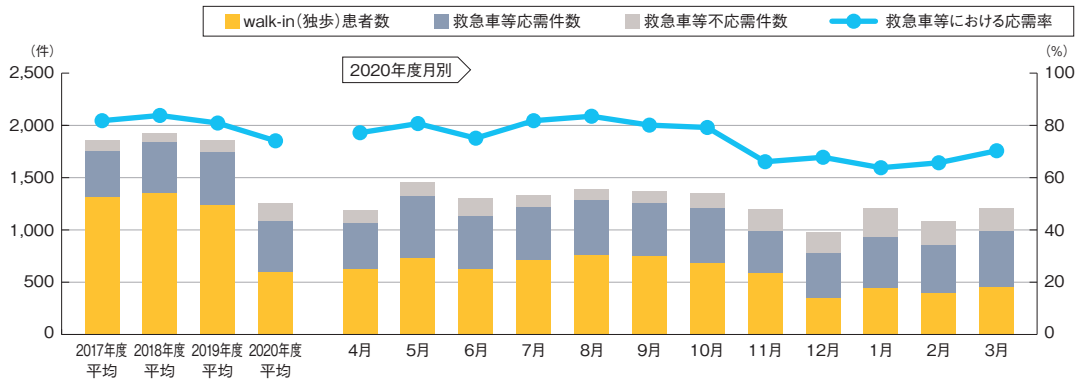
軽症から中等症、重症までいざという時の医療を提供

手稲溪仁会病院は救命救急センターを中心に、幅広い年代・病態に対応する24時間365日の救急医療体制を整備しています。

救命救急センターは3次救急病院に指定されていますが、ご自身で来院されるウォークインの軽症・中等症患者さんの受け入れも行っています。ウォークインの患者さんを緊急度によって振り分ける救急外来、疾病や外傷に合わせて必要な処置を行えるERを3室、

緊急の処置・診療が終わった患者さんに、集中治療や急性期リハビリを含めた入院治療を行える救命救急病棟30床を備えます。救急専任医が常時数名体制で診療にあたり、消化器病センター・心臓血管センター・脳神経外科・小児科・外科・ICUの各当直医がバックアップし、入院医療が必要な場合は各診療科に引き継がれます。

●救急受診患者数統計



●2020年度救急搬送実績

3次要請	412例
外傷登録	1,199例
紹介患者	997例

※総症例数は5,887例

広大な道央圏の救急医療を支えるドクターヘリ

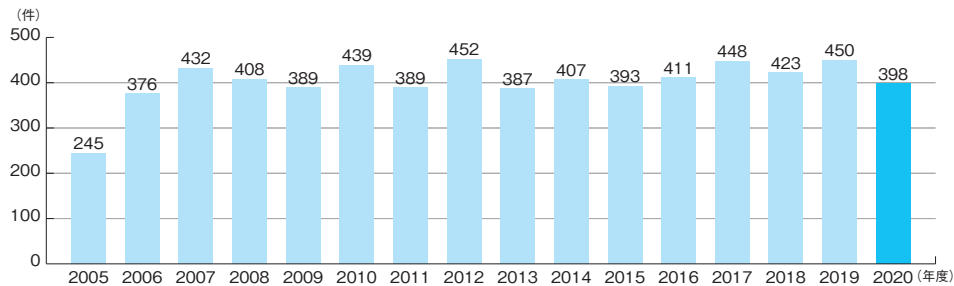
救急搬送をより迅速に行う手段として、手稲溪仁会病院は2005年に道央ドクターヘリの基地病院に指定され、以来運航を担っています。同病院から半径150kmを運航圏とし、出動要請があればフライトドクター・ナースが現場へ急行することで、迅速な処置と搬送を行います。

関係機関への説明、各地での報告会の開催や、119番通報の段階であらかじめ決めたキーワードに合致すれば直ちにドクターヘリを要請するキーワード方式の採用により、要請件数を増やして

きました。運航開始当初は外傷による重症者への出動要請が多かったのが、近年は脳卒中や心不全など内因性の疾患の緊急搬送にも活用されるようになりました。

厚生労働省では救急医療のレベルアップをめざし、救命救急センターの診療体制について評価制度を設けています。手稲溪仁会病院救命救急センターは、2020年度の評価で道内初のSランク評価を受けました。これからも同病院は地域の方々のいざという時の安心のために、救急医療を支え続けます。

●道央ドクターヘリ年度別出動件数推移



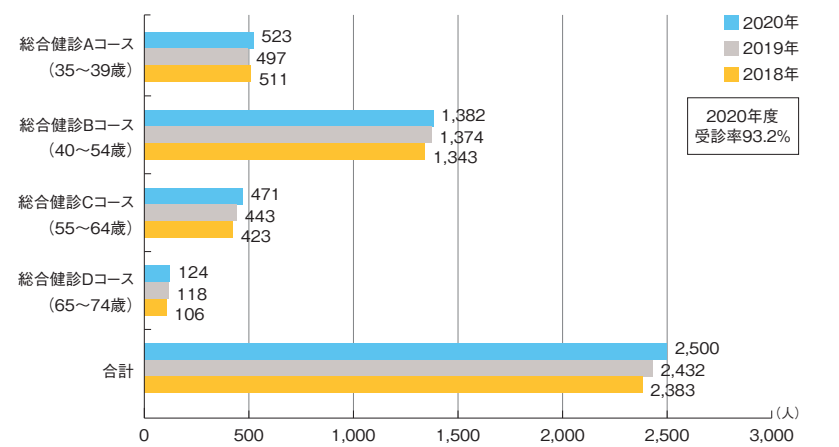
積極的に健康増進を支援し職員の健康を守る

[溪仁会健康保険組合]

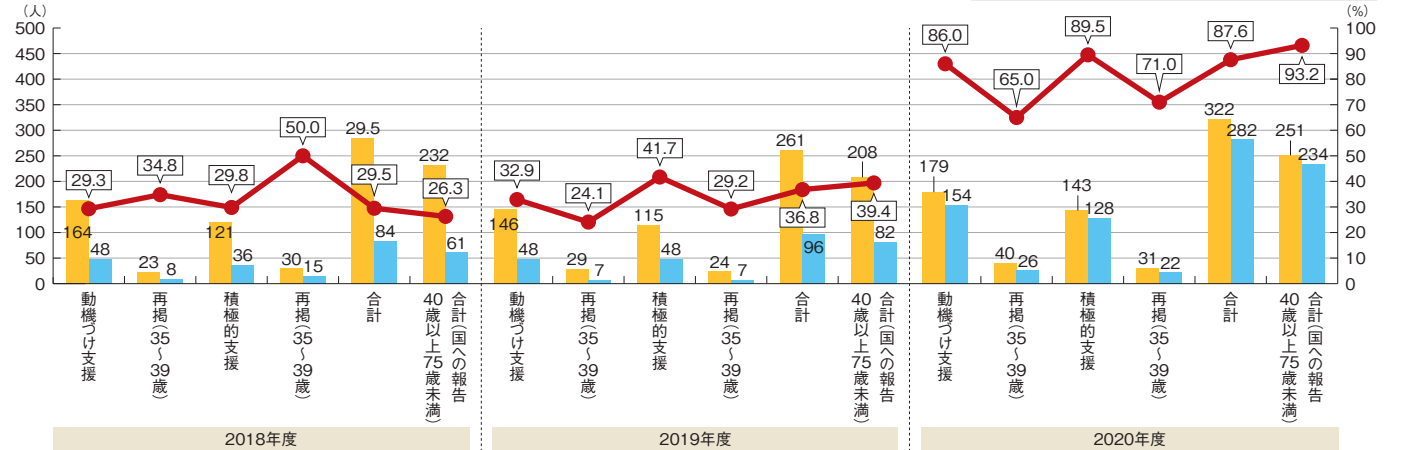
溪仁会健康保険組合は、健診の実施や、健康に関する啓発活動、子育て支援などを通して、溪仁会グループ職員とその家族の健康を守っています。同組合には現在、グループ全職員とご家族6,951名が加入しています(2021年9月現在)。

特定保健指導では、健診結果にメタボリックシンドロームのリスクがみられる対象者に動機づけ支援を行い、特にリスクの高い対象者には積極的支援などのサポートを行っています。2020年度は各職場の努力や、健診・指導を担う溪仁会円山クリニックの実施勧奨により、高い実施率を継続することができました。

●被保険者(35歳～75歳未満)の健保補助を利用した年度別健診実績



●特定保健指導(35歳～75歳未満の加入者)の実施状況



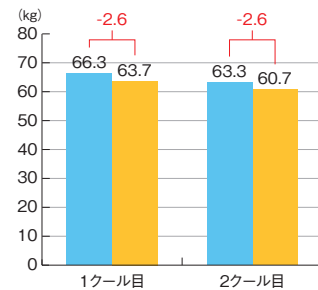
健康増進(ダイエット)プログラム

組合設立10周年を記念し、実践型生活習慣改善プログラムを開始しました。定員は20名で、被保険者は誰でも参加が可能です。健診データや体力測定により現状を把握し、初回は管理栄養士および健康運動指導士などによるセミナーを実施。その後溪仁会円山クリニックのフィットネスジムの利用により生活習慣を改善し、3カ月後に目標達成を確認、修了者はその後同組合の補助で3カ月間ジムの利用が無料となります。

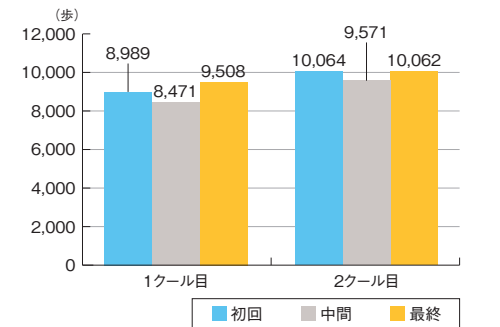
●2020年度健康増進(ダイエット)プログラム

1クール目	日程 2020年7月28日～10月29日 参加者 男性4名、女性16名 3名がリタイア、17名中16名が初回より体重減少し、うち13名が目標の体重3%減量を達成。
2クール目	日程 2020年11月24日～2021年2月25日 参加者 男性2名、女性13名 3名がリタイア、12名中11名が初回より体重減少し、うち10名が目標の体重3%減量を達成。

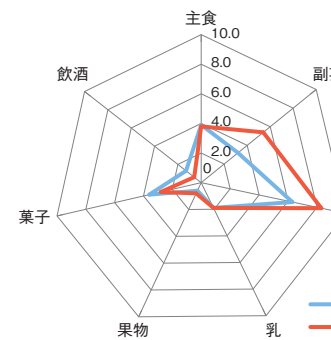
●結果／体重平均



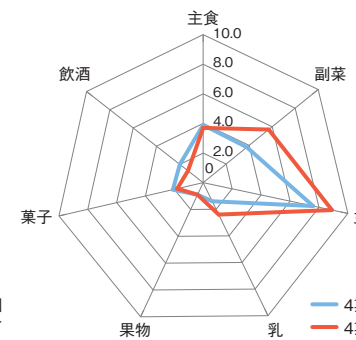
●結果／歩数平均



●1クール目 食事バランス診断



●2クール目 食事バランス診断



グループ全体の数字

溪仁会グループは各施設の連携のもとでさまざまな取り組みを進めています。当グループの規模や活動が見える数字を集めました。

グループの基本データ編

●総事業所数 **84**

●グループ職員総数 **5,125名**

職種別人数	医師：397名、看護職員：1,647名、介護職員：1,028名、セラピスト：566名、 その他医療資格者：345名、事務職員その他：1,142名
男女別職員数*	医療法人：男性1,060名／女性2,705名(管理職：男性180名／女性112名) 社会福祉法人：男性390名／女性874名(管理職：男性72名／女性38名)

※医療法人・社会福祉法人のみ

●ワーク・ライフ・バランス

産休・育休取得者数

104名 (医療法人：87名
社会福祉法人：17名)

院内保育所利用園児数(延べ)

32,297名 ※手稲溪仁会病院・札幌西円山病院・
定山溪病院の合計

財務のデータ編

●2020年度の各法人の収益
(単位：百万円)

医療法人溪仁会 **42,981**

社会福祉法人溪仁会 **6,840**

その他関連法人 **929**
(株式会社ソーシャル、医療法人稲生会)

保健・医療のデータ編

●総ベッド数

1,806床

※2021年3月現在

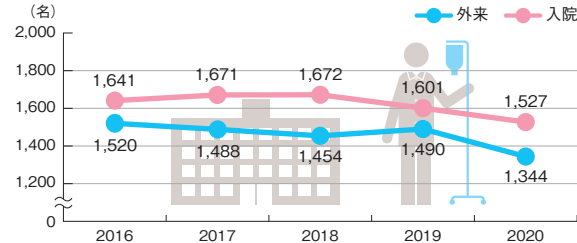
●ドクターヘリ出動件数

398件

出動要請件数**688件**

手稲溪仁会病院……………670床
手稲家庭医療クリニック……………19床
札幌溪仁会リハビリテーション病院……………155床
札幌西円山病院……………603床
札幌西円山病院 介護医療院……………60床
定山溪病院……………295床
溪仁会円山クリニック……………4床

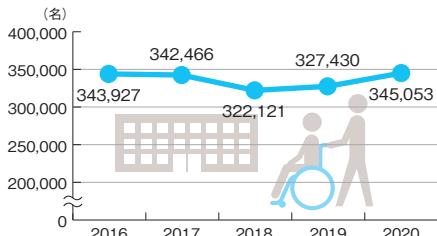
●1日あたりの外来・入院患者数



※医療法人溪仁会全体の平均の推移

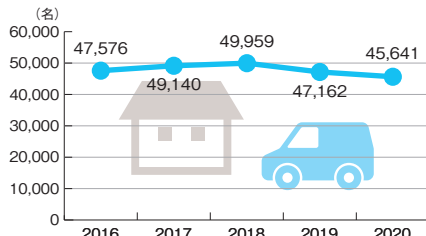
介護・福祉のデータ編

●施設入所者数



※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数総計

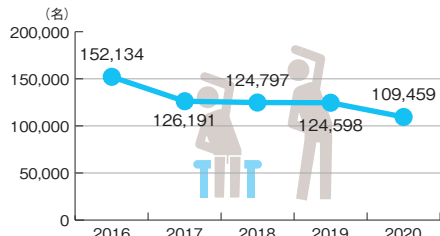
●訪問サービス利用者数



※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数総計

※在宅サービス：訪問介護・訪問看護・訪問リハ

●通所サービス利用者数



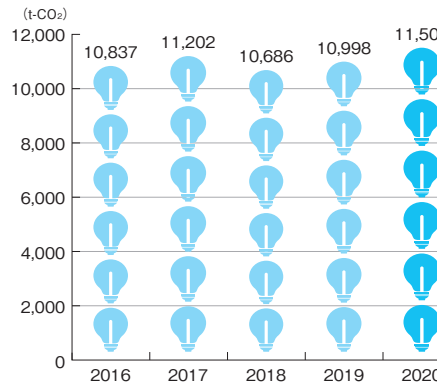
※社会福祉法人溪仁会全体の延べ人数総計

※通所サービス：通所介護・通所リハ

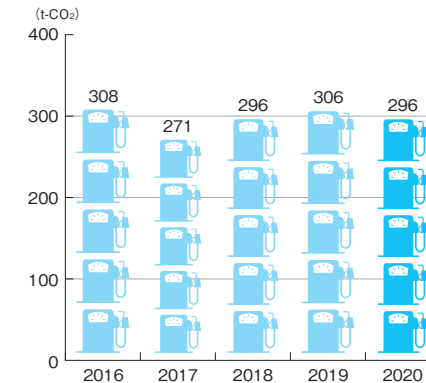
環境のデータ

※環境負荷のデータはすべて医療法人のみ

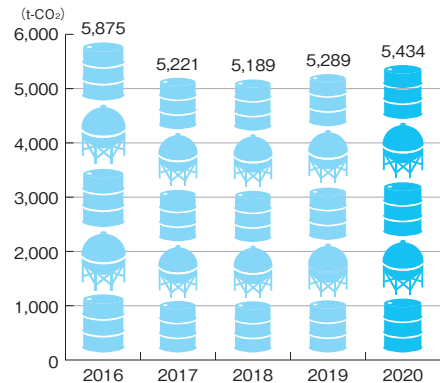
●電気使用量



●車両燃料(ハイオク・レギュラー・ガソリン・軽油)



●建物設備維持燃料(都市ガス・灯油・A重油・LPG)



各施設の数字

第4期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン溪仁会2025」の達成に向けた、各施設の活動に関する数字をご報告します。

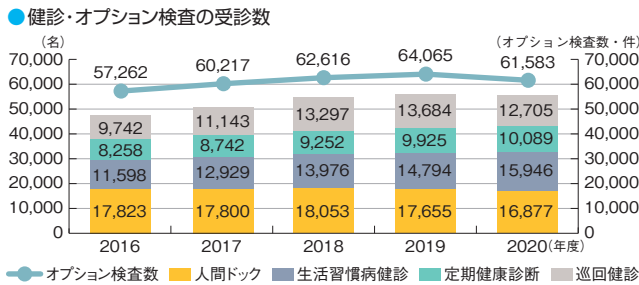
溪仁会円山クリニック

保健

【施設の機能】

人間ドック・健康診断施設として、健診の受診から健診後のフォローアップまで、一貫したシステムで、ご利用者様に安心と納得、満足の得られる健診サービスを提供します。

【施設の主な指標】



【その他の活動の数字】

●60歳以上の受診者数……………**9,343名**
●1日平均受診者数……………**175.1名**
●特定保健指導実施件数……………**5,410名**
●職員数……………**142名**

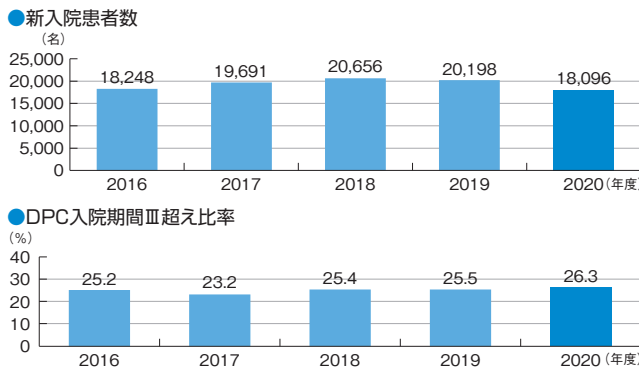
手稲溪仁会病院・手稲溪仁会クリニック

治療とケア

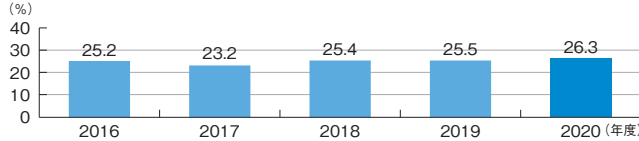
【施設の機能】

急性期医療・専門医療を提供する地域中核病院として、質の高い急性期総合医療を提供すること、また地域住民の皆さまから頼りにされる病院であることを使命とし、職員一同、日々研鑽しています。その結果、「地域医療支援病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「救命救急センター」、「ドクターヘリ基地病院」、「災害拠点病院」、「初期臨床研修指定病院」等の指定を受け、多種多様な疾患の受け入れを行っています。

【施設の主な指標】



●DPC入院期間Ⅲ超え比率



医療機関の機能分化を推進するにあたり、急性期病院として入院期間を意識し、早期退院・転院を行いながら、地域全体としての最適化を図ることを目的としています。

【その他の活動の数字】

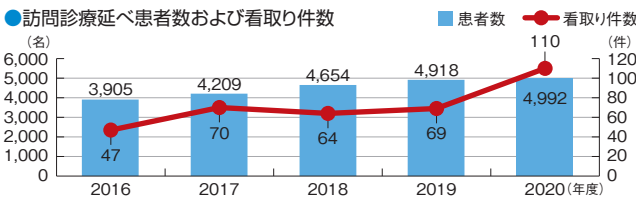
●外来実患者数／月……………**16,519人**
●救急応需率／月……………**68.8%**
●地域からの不応需件数／月……………**17件**
●紹介初診患者数／月……………**1,044人**
●紹介患者数／月……………**1,520件**
●紹介率／月……………**66.9%**
●逆紹介件数／月……………**798件**
●逆紹介率／月……………**51.1%**
●外来新患割合／月……………**33.1%**
●薬剤管理指導件数／月……………**1,609件**
●栄養食事指導件数(入院・外来)／月……………**642件**
●周術期口腔ケア件数／月……………**334件**
●リハビリテーション件数(初期)／月……………**3,115件**

手稲家庭医療クリニック・はまなす訪問看護ステーション 治療とケア

【施設の機能】

家庭医療および総合診療、在宅医療サービスを提供する地域包括ケアシステムの要を担う有床診療所です。地域住民の健康を守る「かかりつけ医」として地域に密着した活動を続けています。

【施設の主な指標】



【その他の活動の数字】

●外来延べ患者数……………**21,354名**
●入院延べ患者数……………**4,569名**
●看取り患者数……………**病棟115名、在宅110名**
●予防接種実施者数……………**3,365名**
●栄養指導実施者数……………**1,097名**
●訪問看護延べ利用者数(はまなす訪問看護ステーション)……………**16,524名**
●職員数……………**79名**

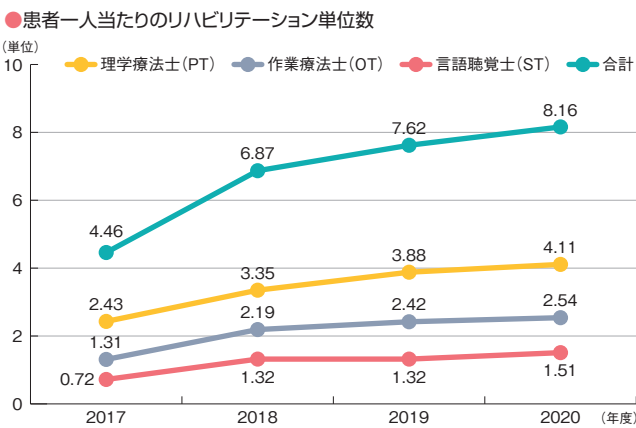
札幌溪仁会リハビリテーション病院

リハビリと療養

【施設の機能】

質の高い回復期リハビリテーション医療を提供し、医療、介護、福祉をつなぐ地域包括ケアの要となる病院です。摂食嚥下・装具・シーティングの専門外来があり、社会復帰や社会参加への取り組みを支援しています。

【施設の主な指標】



開設した2017年度から2020年度まで、スタッフ数を計画的に安定させてきた結果、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士全ての職種において「患者さん一人当たりのリハビリテーション単位数」が増加しています。

【その他の活動の数字】

●外来延べ患者数……………**10,197名**(1日平均41.8名)※
●入院延べ患者数……………**51,175名**
●入院患者平均年齢……………**69.8歳**
●平均在院日数……………**70.8日**
●在宅復帰率……………**64.2%**
●リハビリテーション実施単位数……………**外来18,772／入院417,760**
●訪問リハビリテーション実施単位数……………**21,699(医療)、15,125(介護)、1,882(予防介護)**
●通所リハビリテーション利用者数……………**2,416名**
●実績指数……………**46.97**(平均数値)
●職員数……………**357名**

※リハビリテーション科と内科の合計

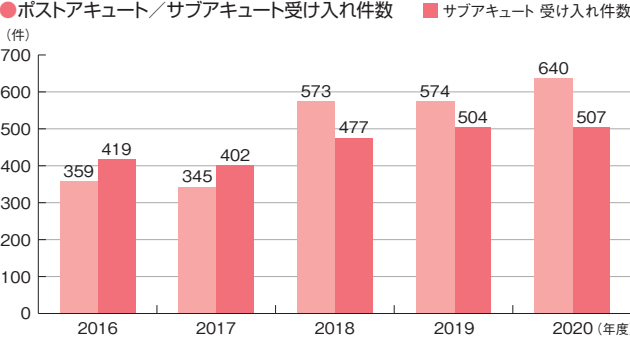
各施設の数字

札幌西円山病院 リハビリと療養

【施設の機能】

リハビリ機能を備えた慢性期病院としての機能を持ちながら、生活習慣病や摂食・嚥下の外来、在宅生活の支援など、多彩なニーズに応える多機能慢性期病院です。障害者施設等一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟を配置しています。

【施設の主な指標】



2016年度の許可病床数760床に対して、2020年度は663床と減少していますが、入院受け入れ数は大幅に増加しています。年々「治療して生活場所へつなげる」機能を強化し、多機能慢性期病院として地域包括ケアシステムに貢献していくことをめざしています。

【その他の活動の数字】

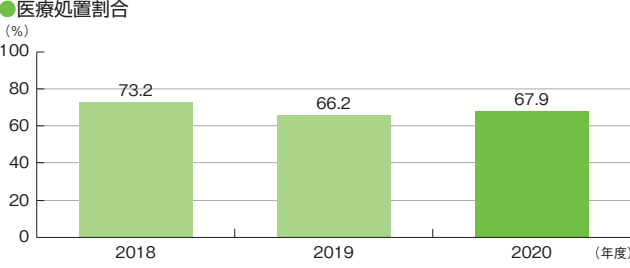
- 外来延べ患者数……………**19,866名**(1日平均81.4名)
年齢別外来患者数 50歳未満9.5%、50歳～60歳未満6.3%、60歳～70歳未満11.1%、70歳～80歳未満27.0%、80歳～90歳未満20.6%、90歳以上25.4%
- 入院延べ患者数……………**211,062名**(1日平均578.2名)
- 入院患者平均年齢……………**81.1歳**
- 患者分類別状況(入院)
…医療療養病床 医療区分1:0%／医療区分2:64.3%／医療区分3:34.6%
- 地域別患者数
札幌市内547名(中央区170名、西区88名、その他289名)、石狩9名、後志10名、空知16名、胆振・日高8名、その他道内49名、道外0名
- リハビリテーション実施単位数(入院)
……………**618,687**(医療保険607,716／介護保険10,971)
- 退院状況……………軽快退院:**63.5%**、転院:**19.2%**、その他:**17.3%**
- 職員数……………**870名**

札幌西円山病院 介護医療院

【施設の機能】

医療施設と生活施設の機能を併せ持ち、利用者の生活の維持向上に向けたサービスを提供します。「にしまるポッケ」の愛称で親しまれています。

【施設の主な指標】



医療処置は喀痰吸引、経管栄養、インスリン注射を示しています。自宅での生活が難しくても、介護医療院であれば医療を受けながら生活の維持・向上を図ることができます。

【その他の活動の数字】

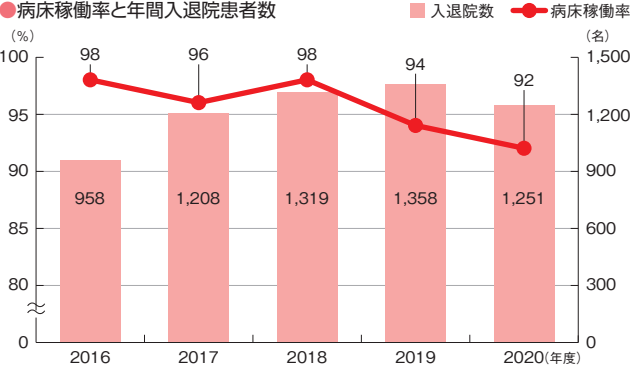
- 平均要介護度……………**4.46**(入所)
- 1日当たり実績……………入所**59.8名**(定員60名)
- 職員数……………**38名**

定山溪病院 リハビリと療養

【施設の機能】

地域包括ケア、障害者、医療療養、特殊疾患病棟を有した多機能型慢性期医療機関です。患者層は小児～高齢者と幅広く、短期～長期の入退院支援と地域支援のため在宅サービスを拡充しています。

【施設の主な指標】



2016年11月に地域包括ケア病棟、2018年8月に障害者病棟を開設し、入退院数が増加しました。2018年度に386床から326床、2019年度に295床へ病床数変更し、柔軟で速やかな入院対応に尽力しています。

【その他の活動の数字】

- 抑制解除率……………**100%**
- 転倒・転落発生率……………**1.98%**
- 新規褥瘡発生率……………**2.19%**
- 死亡後カンファレンス実施率……………**100%**
- 総入院サブアキュート率……………**63.7%**
- 地域包括ケア病棟サブアキュート受け入れ率……………**79.1%**
- 入院患者平均年齢……………**74.7歳**(最年少3歳)
- リハビリテーション平均単位数……………**障害4.7単位、地域包括3単位、医療療養2.5単位、特殊疾患0.6単位/日**
- 大浴場での温泉入浴支援件数……………**134件**※
- 訪問診療登録者数……………**73名**
- 訪問リハビリテーション登録者数……………**200名**
- 地域別患者率
……………**札幌市内90%**(南区55%、南区以外他区35%)、**札幌市外10%**

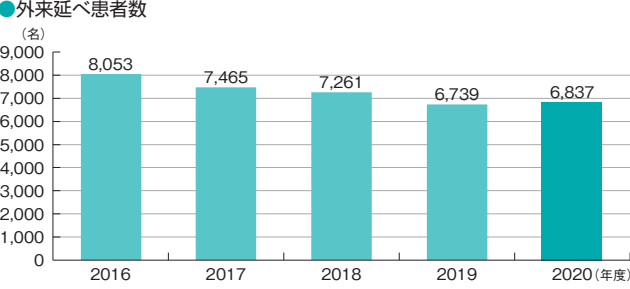
※入浴施設は全て定山溪温泉の温泉水(ナトリウム塩化物泉)を使用

泊村立茅沼診療所 地域医療

【施設の機能】

泊村で唯一の診療所として、外来診療のほか企業の健康診断や学校健診、各種ワクチン接種、隣接する福祉施設の診療も担う地域医療の拠点となっています。

【施設の主な指標】



【その他の活動の数字】

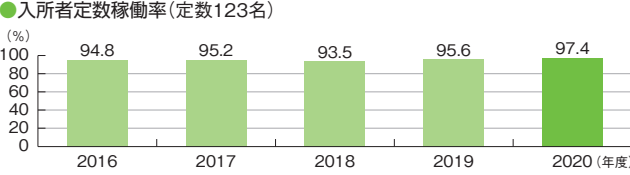
- 保健予防活動
予防接種……………**1,163名**
事業所健診……………**608名**
- 主治医意見書作成……………**61名**
- 職員数……………**8名**

西円山敬樹園 介護

【施設の機能】

この地域で生まれ育ち、高齢になっても住み続けることができる安心を作ります。なじみの施設が近くにあることで地域に暮らす高齢者、要介護者の方々が住み慣れた地域で最期を迎える役割を担います。

【施設の主な指標】



入所要件が改定後、平均要介護度が上昇。重度者増加に伴い、入院者が入所者数を上回り、入院期間中の空床が増加しています。そのため、入院、退院時連携強化に努めています。

【その他の活動の数字】

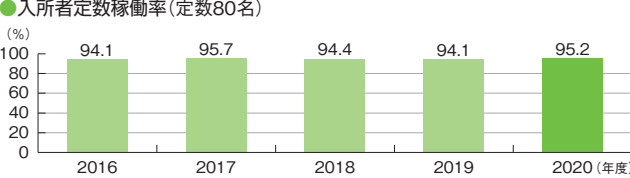
- 平均要介護度……………**4.0**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**18.7名**(定員30名)稼働率62.2%
- 職員数……………**153名**

月寒あさがおの郷 介護

【施設の機能】

地域住民の皆さまや近隣施設、医療機関等の協力をいただきながら、介護が必要になった場合でも安心して過ごしていただけるよう、質の高いサービス提供を通じて地域貢献できる施設づくりをめざしています。

【施設の主な指標】



施設での生活がより長く充実したものとなるよう、入院された場合でも早期に施設生活が再開できることをめざし、医療機関との調整やサービスの拡充を図っております。

【その他の活動の数字】

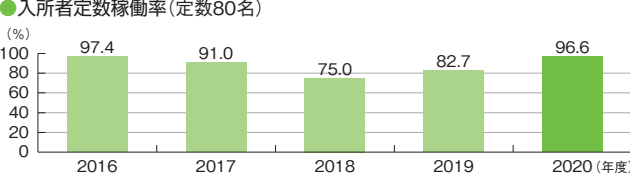
- 平均要介護度……………**3.8**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**31.3名**(定員45名)稼働率69.4%
- 職員数……………**85名**

きもべつ喜らめきの郷 介護

【施設の機能】

多種多様な福祉のニーズに対し、喜茂別町という「地の利」を活かしながら、ご利用者、ご家族、町(地域)、施設(職員)などが相互に円滑な連携を図り、共生社会の実現に向けて、施設がその一翼を担っています。

【施設の主な指標】



2018年度の稼働率減少については、2017年度からの最大2ユニットの閉鎖に伴うもので、2019年度の再稼働によって2020年度から回復しています。

【その他の活動の数字】

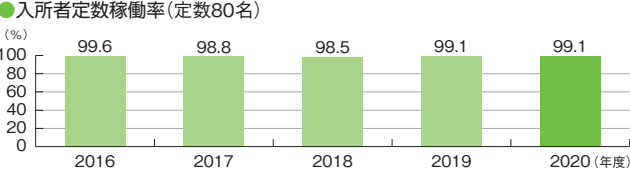
- 平均要介護度……………**3.6**(入所)
- 職員数……………**64名**

手稲つむぎの杜 介護

【施設の機能】

介護が必要な状態になっても在宅生活が継続できるよう、複数の在宅サービスを併設。在宅が困難となった場合でも特養入所により慣れ親しんだ地域での生活を継続できるようサービス提供を行っています。

【施設の主な指標】



入所時に健康管理のご意向を確認し、看取りの対応を行っています。また、待機者の状況を定期的に把握し、空床発生時には速やかな入所調整を行っています。

【その他の活動の数字】

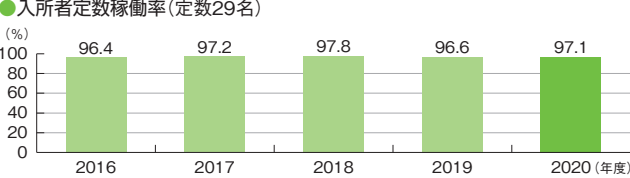
- 平均要介護度……………**4.3**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**44.2名**(定員65名)稼働率68.0%
- 職員数……………**139名**

菊水こまちの郷 介護

【施設の機能】

過ごし慣れた地域で、最期の時まで「わが家」のように過ごしていただけるよう、地域・町内とのつながりを大切にし、町内会活動はもちろん、認知症カフェ等を通した情報発信も行っています。

【施設の主な指標】



看取り対応を積極的に行っており、年齢・病状に幅広く対応することにより、専門職のスキルアップが図られ、幅広いニーズに対応できるよう努めています。

【その他の活動の数字】

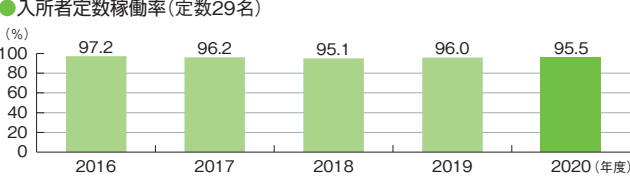
- 平均要介護度……………**4.2**(入所)
- 職員数……………**54名**

るすつ銀河の杜 介護

【施設の機能】

地域密着型特別養護老人ホームとして、併設事業の通所介護、居宅介護支援事業所と連携しながら、「留寿都村で最期まで生活したい」と考えている高齢者の福祉ニーズなど、幅広く地域の要請に応えています。

【施設の主な指標】



地域密着型施設という形態もあり、待機者の確保には大変苦労していますが、きもべつ喜らめきの郷と連携しながら、2施設で109室の居室稼働率のイメージで調整しています。

【その他の活動の数字】

- 平均要介護度……………**3.4**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**6.3名**(定員10名)稼働率63.2%
- 職員数……………**32名**

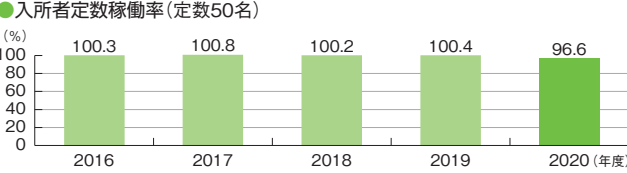
各施設の数字

岩内ふれ愛の郷 介護

【施設の機能】

主に日常生活の介護が必要な高齢者を対象に、生活全般のケアのほか、四季折々のレクリエーション等も提供しています。「コミュニティの丘」として他事業と連携し、心身機能の維持にも努めています。

【施設の主な指標】



コミュニティホーム岩内と連携し稼働率100%達成を目標に掲げ取り組んできました。職員確保や入所待機者減少等多くの課題がありますが、より効率的な運営をめざします。

【その他の活動の数字】

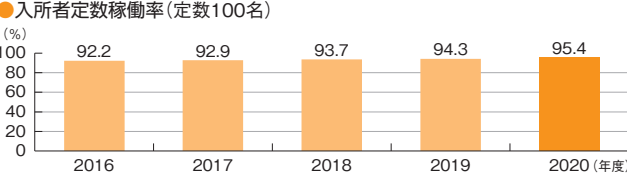
- 平均要介護度……………**4.0**(入所)
- 職員数……………**43名**

コミュニティホーム白石 社会復帰・生活支援

【施設の機能】

白石区の中心部にある介護老人保健施設であり、地域と連携したさまざまな介護・福祉サービスを提供しています。リハビリスタッフが充実しており、多職種連携のもと自立に向けた支援を行っています。

【施設の主な指標】



介護老人保健施設の役割とされる在宅復帰をめざす施設として、入退所の調整を行っています。地域への理解も浸透してきており、稼働率は上昇傾向にあります。

【その他の活動の数字】

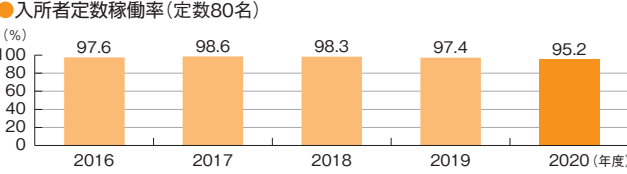
- 平均要介護度……………**3.0**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**36.0名**(定員50名)稼働率72.1%
- 職員数……………**213名**

コミュニティホーム美唄 社会復帰・生活支援

【施設の機能】

高齢化が続く地域において、地域包括ケアシステムの一端であるとともに在宅ケアに先立つ準備を担う中間施設として、入所や通所サービスを提供しています。また、災害時の福祉避難所としての機能も備えています。

【施設の主な指標】



在宅復帰の推進等により稼働率が不安定な時期もありましたが、他施設・医療機関と待機者・退院予定者の情報交換を行う等、連携を図ることで徐々に安定してきています。

【その他の活動の数字】

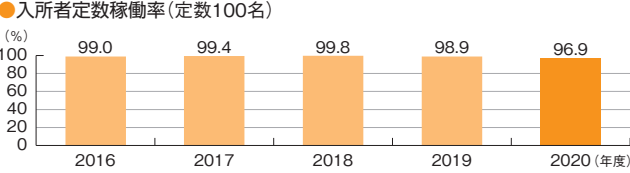
- 平均要介護度……………**2.7**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**48.4名**(定員65名)稼働率74.5%
- 職員数……………**102名**

コミュニティホーム岩内 社会復帰・生活支援

【施設の機能】

入居・通所・訪問等のさまざまな事業が一つの高台に集まる「コミュニティの丘」として、保健・医療・福祉等の幅広いサービスを提供しています。住み慣れた地域でのその人らしい生活をご支援します。

【施設の主な指標】



協力医療機関等と連携し「在宅支援・在宅復帰」拠点施設として、高い稼働率で推移しています。今後も地域の中での役割を果たしながら、より効率的な運営をめざします。

【その他の活動の数字】

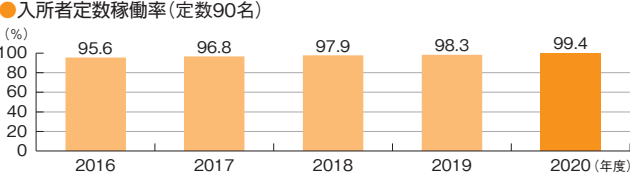
- 平均要介護度……………**2.8**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**41.0名**(定員50名)稼働率82.0%
- 職員数……………**148名**

コミュニティホーム八雲 社会復帰・生活支援

【施設の機能】

八雲町にただ一つ存在する介護老人保健施設です。入所のほか、デイケアや訪問リハビリ、訪問介護も併設しており、住み慣れた地域の中で介護を必要とする人と、その家族の生活を支え続けます。

【施設の主な指標】



2016年より在宅復帰・在宅支援を強化。綿密な入退所計画と、入院等での急な空床発生時には、ショートステイのニーズに即応することで、稼働率向上につながっています。

【その他の活動の数字】

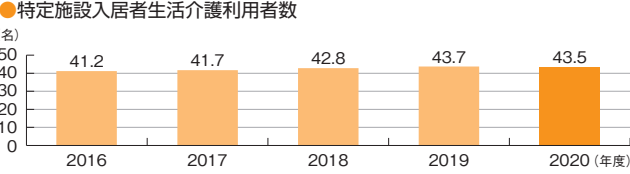
- 平均要介護度……………**3.1**(入所)
- 通所介護1日平均利用者数……………**31.8名**(定員55名)稼働率57.7%
- 職員数……………**105名**

カームビル西円山 社会復帰・生活支援

【施設の機能】

食事の提供・緊急時の対応・健康管理および相談助言を基本サービスとし、日常生活を支援しています。また要介護状態となった方が入居生活が継続できるよう、特定施設入居者生活介護の指定も受けています。

【施設の主な指標】



リハビリや趣味活動などの充実により心身の介護予防・重度化予防に努めています。いつまでも暮らしていただける施設であることをめざして、職員一人ひとりがさまざまな企画を立てて実践しています。

【その他の活動の数字】

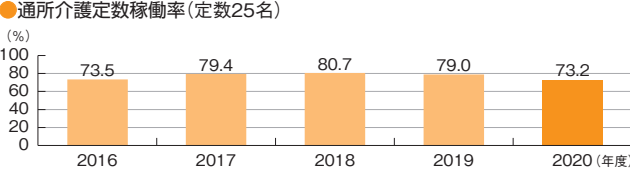
- 平均要介護度……………**1.1**(特定施設利用者)
- 職員数……………**22名**

美唄市東地区生活支援センター すまいる 生活支援・通所介護

【施設の機能】

通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業に加え、自主事業の福祉入浴、美唄市からの受託事業として高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業(LSA)と、福祉の複合事業体として地域に根差したサービスを提供しています。

【施設の主な指標】



入所や入院の長期化が大きく影響する中、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、利用控えが目立ちました。対策として振替利用や新規受け入れによりスピーディーに対応しています。

【その他の活動の数字】

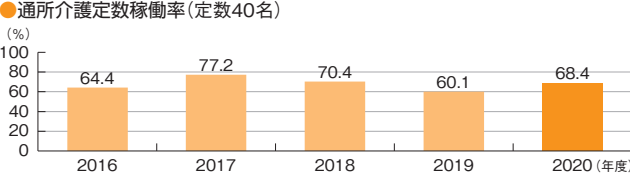
- 平均要介護度……………**1.2**(通所介護・通所型サービスA)
- 通所介護1日平均利用者数……………**18.3名**(定員25名)稼働率73.2%
- 職員数……………**48名**

青葉ハーティケアセンター 生活支援・通所介護

【施設の機能】

介護保険サービス以外に、多機能型児童デイサービスばぶりを2020年8月に開設し、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象にした複合事業体として、地域の方の自立支援を担っています。

【施設の主な指標】



同一敷地内の訪問看護、居宅介護支援事業所との連携を強化したことにより、一人ひとりのご利用者ニーズに柔軟に対応できる体制を整えています。

【その他の活動の数字】

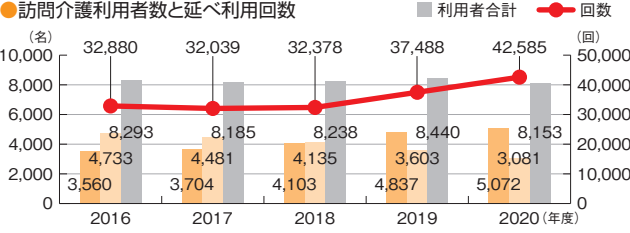
- 平均要介護度……………**1.8**(通所介護)
- 通所介護1日平均利用者数……………**27.4名**(定員40名)稼働率68.4%
- 職員数……………**51名**

株式会社ソーシャル 在宅支援・生活支援

【施設の機能】

訪問介護員が被介護者の自宅を訪問し、自立に向けた支援を行います(入浴介助・排泄介助・買い物同行などの身体介護や、掃除・洗濯・調理などの家事面における生活援助)。

【施設の主な指標】



要介護者の件数が年々増加しています。それに伴い、年間のトータル利用者訪問回数増加につながってきています。

【その他の活動の数字】

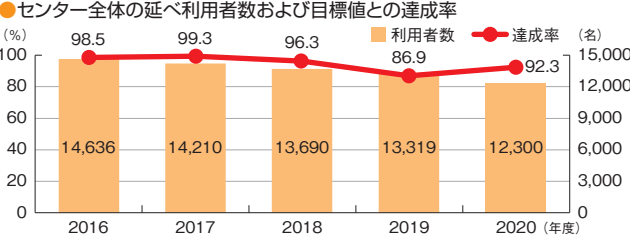
- ヘルパー研修……………**12回**／年
- 職員数……………**97名**(うちパート81名)

おおしまハーティケアセンター 生活支援・通所介護

【施設の機能】

宮城県気仙沼市大島地区で、地域の高齢者やご家族、そして地域住民を含めた在宅介護支援事業の一翼を担うべく、居宅介護支援・通所介護・短期入所・訪問介護・地域包括の事業所が連携し、多機能の在宅施設として利用者のニーズに沿った介護サービスの提供を行っています。

【施設の主な指標】



事業所の閉鎖や職員体制の変更等があり、利用者数は年々減少していますが、各事業所の目標値を達成することで、今後も継続して安定した運営を図っていきます。

【その他の活動の数字】

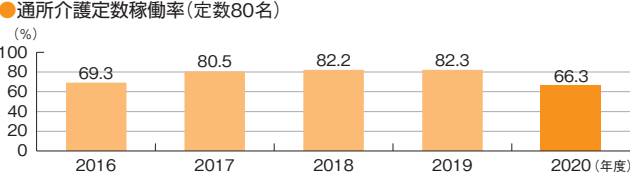
- 平均要介護度……………**2.1**(センター全体)

円山ハーティケアセンター 生活支援・通所介護

【施設の機能】

円山ハーティケアセンターは居宅介護支援事業所と高齢者デイサービス事業の2つの在宅サービスを提供する施設です。住み慣れた自宅での生活を継続できるように支援していきます。

【施設の主な指標】



2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で利用を控える方が多く、稼働率の落ち込みが顕著でした。感染対策を徹底し、安心して利用していただける事業所をめざしています。

【その他の活動の数字】

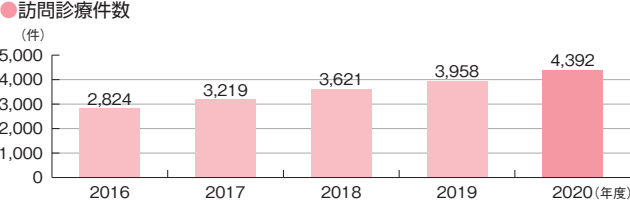
- 平均要介護度……………**1.9**(通所介護)
- 通所介護1日平均利用者数……………**53.1名**(定員80名)稼働率66.3%
- 職員数……………**41名**

医療法人稲生会 身体障がい者支援

【施設の機能】

ご自宅で人工呼吸器などの高度な医療を必要とする子どもたちが安心して生活できるように、医療のみならず療育・教育・社会参加など生活全般を対象に、訪問診療・訪問看護・居宅介護・短期入所等の在宅医療を提供しています。

【施設の主な指標】



小児や成人障がい当事者に対する在宅医療を提供する診療所は少なく、医療的ケアを必要とする子どもたちの出生率は上昇していることから、訪問件数は年々増加しています。

【その他の活動の数字】

- 在宅人工呼吸器管理料算定数／月……………**145件**
- 在宅時医学総合管理料算定数／月……………**204件**

新たな中期経営計画を策定し 持続可能な組織体制の 確立に取り組む

2040年を視野に

第3期中期経営計画への取り組みを経て

溪仁会グループは、組織全体で将来ビジョンを共有し、その実現を通して持続的な成長を図ることを目的に、5年単位で中期経営計画を策定しています。2020年は第3期中期5ヶ年経営ビジョン「ビジョン溪仁会2020」の最終年度であり、5年間の取り組みを振り返り、評価する年でもありました。

「ビジョン溪仁会2020」の策定当時は、2025年問題が喫緊の課題となっており、超少子高齢社会を支えていくために、当グループのめざす姿はどうあるべきか、ということが大きなテーマとなりました。そこで「独創性」「一体感」「客観性」を三本柱に、2025年を見据えた「あるべきすがた」を構築するための経営戦略を立て、活動を展開してきました。この「あるべきすがた」とは、当グループのすべての施設や事業が地域を代表する機能を有し、中核的な役割を果たすことを意味しています。この5年間、経営戦略に基づき、それぞれの施設がビジョンの達成に取り組んだ結果、一定の成果を得ることができたのではないかと考えています。

一方で見えてきた課題もあります。その一つが、グループ内のシームレスな連携です。当グループは、保健、医療、介護、福祉のサービスを担う複合事業体であり、医療では予防から急性期、回復期、慢性期まで、福祉では入所や通所、在宅支援など、多様なサービスを提供しています。グループ内の連携をよりスムーズにすることで迅速なサービスの提供が可能となり、患者さんや利用者さんにとっても、さらに多くのメリットが生まれると考えています。また、DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応も、検討が始まったところです。これらについては今後も引き続き取り組むことになります。

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長

田中 繁道

現場の声を取り入れながら新たな一歩を

第3期中期経営計画の評価を踏まえ、2021年から第4期中期5ヶ年経営ビジョンである「ビジョン溪仁会2025」がスタートしました。大きな特徴は、トップダウンとボトムアップの融合を図り、現場の考えをビジョンの策定に取り入れたことです。以前から「現場で働く職員の声を反映してほしい」という意見があり、今回のビジョン策定では、各施設の代表者などを含めたワーキングチームを立ち上げ、議論を深めました。これによって、現場の実情に即した、より具体的な中期経営計画の策定に至ることができました。

新たなビジョンでは、複合事業体という当グループの特性を活かすため、すべての施設を大きな病床として捉え、グループ全体で最適に運用することをめざしています。それと同時に、当グループの各施設を利用する患者さん、利用者さん、さらにはそのご家族までを含めて大切な全体顧客と考え、グループ内でシームレスなサービスを提供できる連携体制の構築に努めます。

近年、最も重視しているのがブランディング戦略です。当グループの個別の施設の名前は知られていても、幅広い医療・福祉サービスを提供する複合事業体であることをご存じの方はまだ少ないと感じています。「溪仁会」と聞いただけで、当グループのさまざまな施設や事業、良質なサービスを思い浮かべていただけるように、溪仁会グループのブランドを強化したいと考えています。

2040年には生産人口が激減し、65歳以上人口がピークに達すると予想されています。当グループはビジョン溪仁会2025への取り組みを通じ、2040年問題に対応した組織づくりをめざします。時代やニーズの変化を捉えながら、地域を支え続けてまいります。

コロナ禍を乗り越え、より強靱な体制に

2020年から続く新型コロナウイルス感染症の流行は、当グループの活動にも大きな影響を与えました。手稲溪仁会病院は流行当初から陽性患者さんを受け入れ、新型コロナウイルス感染症の治療や感染拡大防止に尽力してきました。

また、グループ内の施設が協力し、感染対策や陽性者発生時の迅速な対応ができたのは、複合事業体ならではの強みでした。

未知の感染症に連携して立ち向かい、困難を乗り越えたことで、グループの一体感がより強まり、医療・福祉に携わる者としての使命を再認識した職員も多かったのではないかと思います。しかし組織としては、感染症の発生を想定したBCP（事業継続計画）の策定や職員の心身へのケアなど、強化が必要な面もありました。BCPについては各施設で見直しを進めており、感染症対策が盛り込まれる予定です。また、職員に対しては、心の相談窓口である「まめやか相談室」などが継続的にサポートしていきます。

未来を見据え、持続可能な組織をめざす

国は2040年に向けて、社会保障制度改革や働き方改革を推進しており、医療・福祉を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。当グループは未来を見据え、医師の働き方改革などへの対応を始めました。さらに、施設の改築や移築についても、投資と収支のバランスを見定めつつ検討していく必要があります。環境の変化に柔軟に対応し、持続可能な組織体制を築いていく考えです。

組織づくりを進める上で、最も大切にしなければならないのが、当グループの理念を共有し、その実現のために努力してくれる職員です。地域の保健、医療、介護、福祉のサービスを担う当グループにとって、要となるのは職員の力であり、組織を支える職員はまさに「宝」といえます。このことから、当グループでは「人財」という表現を用い、人財マネジメントに力を注いでいます。職員が一人の人間として、また職業人として成長を続けることが、当グループの持続的な発展につながっていると思っています。

現代は予測することが難しい「不確実な時代」といわれています。その中にあっても、当グループは常に高みをめざし、職員が誇りや喜びを感じながら働くことのできる組織であり続けることを目標にしています。そして、「宝」である職員の思いを大切にしながら、ゆくゆくは日本を代表する保健、医療、介護、福祉の複合グループへと成長したいと考えています。

第三者意見

報告の信頼性を高め、グループの活動を見直し質の向上へつなげるため、地域経済や組織運営に明るく、CSR分野に詳しい有識者に本レポートへのご意見をいただきました。いただいたご意見は、活動の改善や次回のCSRレポート編集へ活かしてまいります。

国立大学法人小樽商科大学
学長

穴沢 眞
(あなざわ まこと)



【プロフィール】

北海道大学経済学部、同大学院経済学研究科博士後期課程修了
小樽商科大学講師、同助教授、同教授を経て現職
アジア経営学会理事、北海道経済学会理事

2020年から続くコロナ禍において医療関係者の皆さんの献身的な活動が多くの方々から称賛されています。浜仁会グループも病院のみならず高齢者施設なども含め、新型コロナウイルス感染症に素早く、そして的確に対応されました。今回のCSRレポートでもまず特集1としてその様子が詳細に記されています。日々の報道では拾い切れていない個別の病院、施設の対応の記述は我々にとっても貴重な情報であり、改めて医療関係者のご苦勞を身近なものとして感じることができました。

今回の2つ目の特集となる「ビジョン浜仁会2025」は、2040年を見据えた長期ビジョンに向けた第一歩という位置づけになります。長期的な観点から浜仁会グループの方向性を考えることはいうまでもなく大変重要なことです。さらに、ビジョン策定のプロセスでは多くの方々が参加し、それぞれの気付きなどをビジョンの中に落とし込む作業が必要になります。そこには参加意識の醸成などの副産物も生まれ、策定プロセスを通じて組織がより強靱なものとなるといえます。

今回提示された7つの大きなビジョンはそれぞれよく考えられた内容となっています。そしてビジョン1から6の先に未来の姿であるビジョン7を据えていることも説得力があるといえます。一方で、例えばビジョン2で取り上げられた意思決定プロセス体制の構築と各組織が行う内容に

は若干齟齬があるように思います。また、ビジョン5と6は活動をみる限りは重複する部分があるように思います。ビジョン間にある程度の重複があることは浜仁会グループとしての活動範囲を考えるとやむを得ない面もあります。ビジョンはそれ自体よりもそれに基づく行動がより重要です。2025年に向けて、各組織がそれぞれのビジョンのもとでどのような行動や活動を行うかを常に振り返る姿勢が求められます。これに関しては座談会の中で外部の有識者から有益なコメントも頂いており、「ビジョン浜仁会2025」をさらにブラッシュアップされる際の一助となると思います。

また、今回SDGsが取り上げられています。このことは組織の在り方として世界の動向を見据えている点が素晴らしいと思います。しかしながら、SDGsの17の行動目標は広範なものであり、これらのうち、現状に即して浜仁会グループとして特に重点を置くものを提示することにより、外部のステークホルダーの皆様へ、より明確に浜仁会グループの姿勢を示すことができると思います。

最後になりますが、巻末にある理事長からのメッセージでは浜仁会グループの将来像が非常にわかりやすく示されています。メッセージ性という観点から、今後、巻末ではなく巻頭に理事長メッセージを置くことも検討されてはいかがでしょうか。

ISO26000対比表

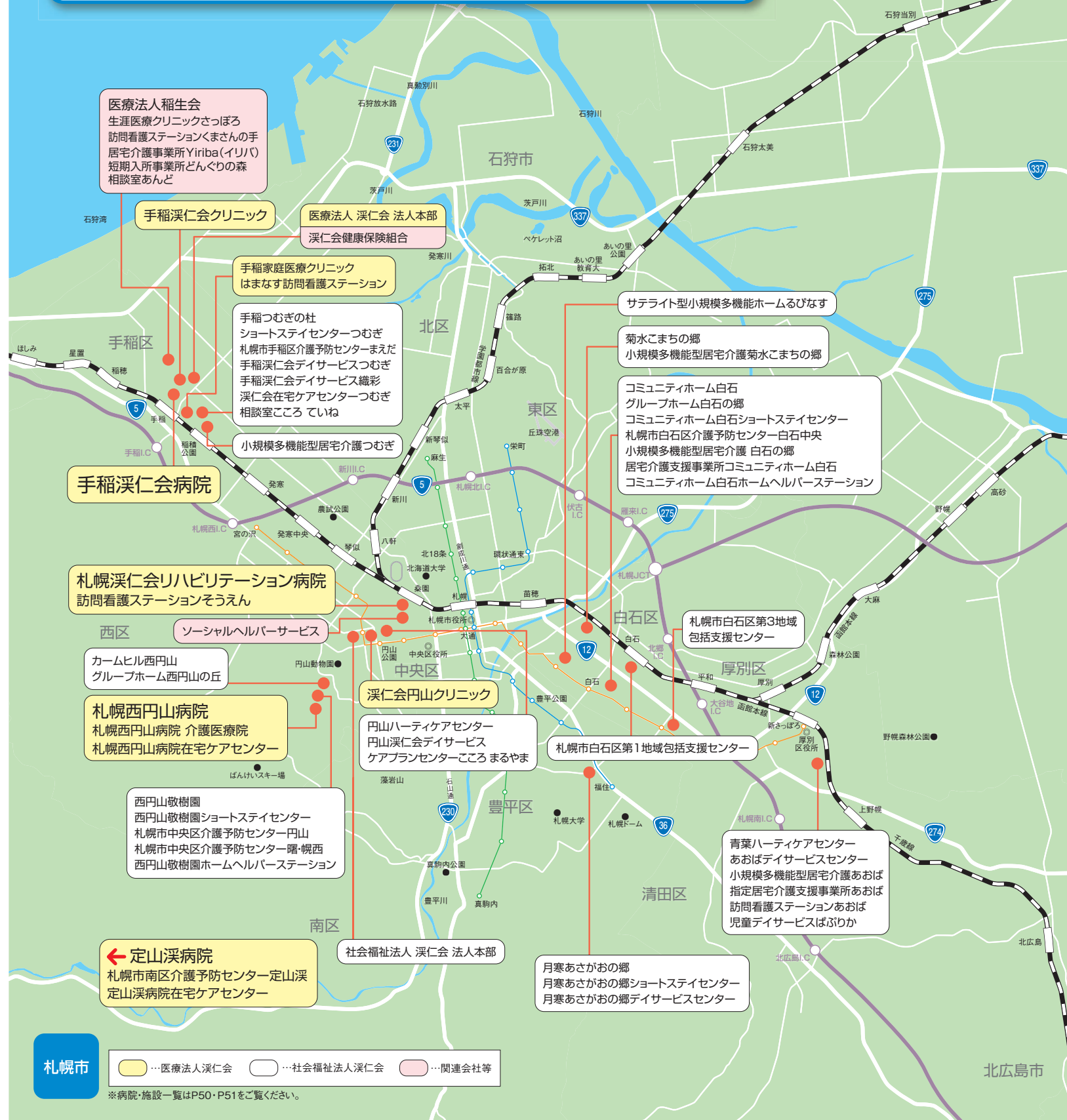
浜仁会グループでは、社会的責任の国際規格であるISO26000を手引きとして、より確実にCSR経営を実行することをめざしています。CSRレポート2021に掲載した取り組みを、7つの中核主題に分類すると以下の通りになります。

中核主題	課題	浜仁会グループ 行動基準項目	取り組み内容
組織統治	組織統治	すべて	浜仁会グループの社会的使命(P04) 浜仁会グループの事業理念(P05) 特集1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)との闘い(P06) コラム 持続可能な未来をめざして Kick Off! SDGs(P14) 特集2 ビジョン浜仁会2025(P16) ステークホルダーダイアログ 人と社会を支え続ける組織であるために(P24) TOP MESSAGE(P44)
人権	課題1: デューディリジェンス 課題2: 人権に関する危機的状況 課題3: 加担の回避 課題4: 苦情解決 課題5: 差別及び社会的弱者 課題6: 市民的及び政治的権利 課題7: 経済的、社会的及び文化的権利 課題8: 労働における基本的原則及び権利	③人権尊重	児童デイサービスばぶりかの活動(P23) 写真展「みんな、とくべつなひとり」を開催(P33)
労働慣行	課題1: 雇用及び雇用関係 課題2: 労働条件及び社会的保護 課題3: 社会対話 課題4: 労働における安全衛生 課題5: 職場における人材育成及び訓練	⑥教育研修 ①職場環境	職員のメンタルヘルスを支える「まめやか相談室」(P18) 働きやすい職場づくりの取り組みが各種認定を取得(P18) 多様な人が働く組織づくりを視野に外国人技能実習制度を活用(P21) 職員の能力を伸ばす浜仁会グループの研修システム(P21) オンラインを活用し各種活動を継続(P32) 積極的に健康増進を支援し職員の健康を守る(P37)
環境	課題1: 汚染の予防 課題2: 持続可能な資源の利用 課題3: 気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4: 環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	⑩環境保護	環境のデータ(P38)
事業慣行 公正な	課題1: 汚職防止 課題2: 責任ある政治的関与 課題3: 公正な競争 課題4: バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5: 財産権の尊重	④順法精神	
消費者課題	課題1: 公正なマーケティング、事実に基づいた偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2: 消費者の安全衛生の保護 課題3: 持続可能な消費 課題4: 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 課題5: 消費者データ保護及びプライバシー 課題6: 必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7: 教育及び意識向上	①顧客満足 ②品質管理 ⑤技術変革 ⑦チームワーク ⑧情報公開 ⑫個人情報保護	嚥下機能評価のための短期入院プログラムを開始(P19) 外来栄養指導の継続効果を検証し目標達成率向上(P19) 訪問リハビリ利用者を対象に転倒リスクの指標化を実施(P19) 健診受付体制の変更により受診者サービス向上へ(P20) 札幌浜仁会リハビリテーション病院の機能強化(P20) 地域での在宅生活を支える多機能慢性期病院の取り組み(P22) 地域療養を支えるモデルスタッフを育成(P22) 定山溪地区の在宅療養を支える「訪問看護エール」開設(P23) 看護師特定行為研修指定研修機関に認定(P28) 介護予防につながる体操動画を配信(P31) 喉頭全摘患者に対する独自のプロトコルを作成(P35) 泌尿器科での「da Vinci」手術1,000例を突破(P35) 不育症センターを開設(P35) 保険適用によるロボット支援腹腔鏡下仙骨腫固定術(RASC)を1月6日に道内で初めて実施(P35) 地域の救急医療に尽力し続けSランク評価を獲得(P36)
コミュニティへの参画及び コミュニティの発展	課題1: コミュニティへの参画 課題2: 教育及び文化 課題3: 雇用創出及び技能開発 課題4: 技術の開発及び技術へのアクセス 課題5: 富及び所得の創出 課題6: 健康 課題7: 社会的投資	⑨地域重視	介護の仕事の魅力を発信するリクルート動画を制作(P29) 感染症対策を徹底して施設内行事を実施(P30) ケアマネジャー主催合同事例検討会を開催(P34) 利用者さんから子どもたちへ手づくりのプレゼント(P34) STVラジオで「医療・福祉ひとくち講座」を4月9日に放送スタート(P35) 5月25日、入居者さんが地域の子どもたちに手づくりのレターセットをプレゼント(P35) 献血運動の推進について厚生労働大臣より表彰を受ける(P35) 気仙沼防火管理者協会より9月9日に防火管理表彰を受ける(P35) 地域の障がい者施設と合同研修会を実施(P35) カームヒル西円山で「リハビリ健診」を実施(P35)

地域とともに、保健・医療・介護・福祉を見つめて

溪仁会グループマップ

溪仁会グループは、札幌市を中心に道央・道南・道外（気仙沼市）に事業所を展開しています。
質の高い保健・医療・介護・福祉の提供を通して、地域の皆さんに安心と満足を提供することをめざしています。



溪 仁 会 グ ル ー プ 一 覧

最新の治療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、24時間・365日あらゆる疾患・外傷の患者さんを受け入れています。

高度急性期・専門医療 手稲溪仁会病院 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-681-8111	手稲溪仁会クリニック 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 ☎011-685-3888	手稲家庭医療クリニック 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-685-3920
---	---	--

看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

回復期医療 札幌溪仁会リハビリテーション病院 札幌市中央区北10条西17丁目36-13 ☎011-640-7012	回復期・慢性期医療 札幌西円山病院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121	地域包括・慢性期医療 定山溪病院 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3323
---	---	---

健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。

人間ドック・健康診断施設 溪仁会円山クリニック 札幌市中央区大通西26丁目3-16 ☎011-611-7766

●介護医療院
 住まいと生活を医療が支える居宅系施設です。

札幌西円山病院 介護医療院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121

●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
 原則65歳以上の方を対象に介護サービス計画に基づき、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や機能訓練、健康管理が受けられます。

西円山敬樹園 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021	岩内ふれ愛の郷 岩内郡岩内町字野東69-4 ☎0135-62-3131	
月寒あさがおの郷 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333	きもべつ喜らめきの郷 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 ☎0136-33-2711	手稲つむぎの杜 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3726

●地域密着型介護老人福祉施設

菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110	るすつ銀河の杜 虻田郡留寿都村字留寿都186-95 ☎0136-46-2811
--	---

●介護老人保健施設
 病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に保健・医療・介護・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。

コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321	コミュニティホーム八雲 北海道八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2000	コミュニティホーム美唄 美唄市東5条南7丁目5-1 ☎0126-66-2001	コミュニティホーム岩内 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-3800
---	--	---	--

●軽費老人ホーム(ケアハウス)
 食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして自立の維持ができる施設です。

カームヒル西円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-5500
--

●認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
 認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。

グループホーム 白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-5861	グループホーム 西円山の丘 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-2200
--	---

●短期入所生活介護(ショートステイ)
 事情により介護ができないうきに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。

西円山敬樹園ショートステイセンター 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021	コミュニティホーム白石ショートステイセンター 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321	おおしまショートステイセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272
月寒あさがおの郷ショートステイセンター 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333	岩内ふれ愛の郷ショートステイセンター 岩内郡岩内町字野東69-4 ☎0135-62-3131	ショートステイセンターつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3726

●地域包括支援センター
 高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。

札幌市白石区 第1地域包括支援センター 札幌市白石区本通4丁目北6-1 五光ビル3F ☎011-864-4614	岩内町地域包括支援センター 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-61-4567	札幌市白石区 第3地域包括支援センター 札幌市白石区本通17丁目南5-12 清友ビル1F ☎011-860-1611	気仙沼市大島地域包括支援センター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-25-8570
--	--	--	--

●介護予防センター
 高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。

札幌市中央区 介護予防センター円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6056	札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6055	札幌市白石区 介護予防センター白石中央 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5535
札幌市南区 介護予防センター定山溪 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3311	札幌市手稲区 介護予防センターまえた 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3141	

●通所介護(デイサービス)
 要支援1・2、要介護1～5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。

あおばデイサービスセンター 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000	円山溪仁会デイサービス 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-632-5500	手稲溪仁会デイサービスつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2568	デイサービスセンターすまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525
デイサービスセンターおおしま 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272	月寒あさがおの郷デイサービスセンター 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333	るすつ銀河の杜デイサービスセンター 虻田郡留寿都村留寿都186-18 ☎0136-46-2811	

●小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110	小規模多機能型居宅介護あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000	●認知症対応型通所介護(デイサービス) 手稲溪仁会デイサービス織彩(しきさい) 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-3328
サテライト型小規模多機能ホームるびなす 札幌市白石区東札幌5条3丁目2-32-103 ☎011-595-8461	小規模多機能型居宅介護つむぎ 札幌市手稲区前田3条9丁目2-7 ☎011-686-0300	
小規模多機能型居宅介護 白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-3100		

●指定居宅介護支援事業所
 介護支援専門員(ケアマネジャー)が介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。

溪仁会在宅ケアセンターつむぎ 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2322	札幌西円山病院在宅ケアセンター 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-5000	定山溪病院在宅ケアセンター 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-5500
居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2252	指定居宅介護支援事業所あおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-8761	居宅介護支援事業所すまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525
居宅介護支援事業所やくも 北海道八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2121	おおしまハーティケアセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272	ケアプランセンターさつき 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-67-7801
ケアプランセンターこころ まるやま 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-640-6622	ケアプランセンターこころ ようてい 虻田郡留寿都村留寿都186-18 ☎0136-46-2811	

●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所
 障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、さまざまな相談に応じています。

相談室こころ ていね 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ☎011-685-2861	相談室あんど 札幌市手稲区前田4条14丁目3-10 ☎011-676-3612
--	---

●訪問看護ステーション
 看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。

はまなす訪問看護ステーション 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-684-0118	訪問看護ステーションあおば 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5500	訪問看護ステーション岩内 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-5030	訪問看護ステーションそうえん 札幌市中央区北10条西17丁目1-4 ☎011-688-6125
---	---	---	---

●訪問介護(ホームヘルパーステーション)
 ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。

西円山敬樹園ホームヘルパーステーション 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-644-6110	コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2008	ホームヘルパーステーションすまいる 美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525
ホームヘルパーステーションおおしま 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272	コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション 北海道八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2122	ケアセンターこころ ようてい 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 ☎0136-33-2112
ソーシャルヘルパーサービス 札幌市中央区北8条西18丁目1-17 ☎011-633-1771		

●通所(児童デイサービス)
 0歳児から高校生までの、児童発達支援・放課後等デイサービス・居宅訪問型児童発達支援サービスを行います。

児童デイサービスぱぷりか 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5006
--

●医療法人稲生会
 身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。

生涯医療クリニックさつぽろ ☎011-685-2799 札幌市手稲区前田4条14丁目3-10(住所共通)	訪問看護ステーションくまさんの手 ☎011-685-2791	居宅介護事業所Yiriba ☎011-685-2799	短期入所事業所どんぐりの森 ☎011-685-2799
--	---	--	--

公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。

泊村立茅沼診療所 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 ☎0135-75-3651
--

医療法人溪仁会 法人本部
 〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 溪仁会ビル3F／☎ 011-699-7500(代表)

社会福祉法人溪仁会 法人本部
 〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F／☎ 011-640-6767



「ずーっと。」

人と社会を支える

私たち溪仁会グループは、
社会的責任(CSR)経営を推進します。
高い志と卓越した保健・医療・介護・福祉サービスにより、
「一人ひとりの生涯にわたる安心」と
「地域社会の継続的な安心」を支えます。

iK 溪仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 溪仁会ビル3F
TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<https://www.keijinkai.com>

